

佛國巴里府獄舍問答錄

全



特 13
6472

昭和九年三月十四日
鶴田乙五

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho) on a two-page spread. The right page contains the main text, while the left page features a blue-lined grid. The ink is dark brown, and the paper shows signs of age and wear.

八

序

我日本距今十年。封建ヲ廢シ。王政ニ復シ。政令一ニ歸セシヨ
 リ。國命一統シ。物皆ナ文物ヲ主トシ。諸港ヲ開キ以テ商船ヲ
 拓キ。文際官ヲ置キ以テ外交ヲ厚クシ。各國ノ學士ヲ聘シ以
 テ教育ヲ博クシ。技藝ハ其秘密ヲ探リ。百工ハ其深奥ヲ尋子。
 或ハ冒濤凌嶮。未リテ其國ニ就キ以テ文物ノ淵源ヲ學フニ
 至レリ。
 國勢此クノ如クナレハ。隨テ人民モ亦夕眼目ヲ新ニシ。鉄車
 汽船。已ニ里程ヲ縮メテ。交易ヲ盛ニシ。製造器械。已ニ蒸烟ヲ

薫シテ。工藝ヲ勵シ。僻村寒邑モ。已ニ学校アラサルノ地ナク。
以テ各其教育ヲ務ム。畢竟我日本モ。旧習ヲ洗脱シ。新ニ文物
教化ヲ以テ他ノ各国ト互立スルノ气象ヲ顯シタリ。
我政府モ亦タ其人民興隆ノ事業ヲ誘導シ。務メテ文教ヲ布
キ。旧政民ヲ愚ニスルノ制度ヲ除キ。行政更ニ新法ヲ立テ。我
人民ヲシテ。治國ノ要。又明ノ道ハ。自主之カ基本トナリ。法律
之レカ規範タルヲ知ラレタリ。

凡ソ一國ノ存在スルハ。安寧保護ノ法アルニ因ル。故ニ我政
府ノ第一務ハ。人民ノ身体財産ヲ保護シ。又々名也ノ自主ヲ
敬重スルニ在リ。依テ警視廳ヲ置キ。大警視ノ官ヲ設ケ。我帝

國全土ノ靜謐ヲ保テ。擾乱ヲ未萌ニ防キ。犯罪ヲ已奈ニ懲治
スルヲ掌トル。故ヲ以テ監獄ハ。大警視職務ノ一要件ナリ。
然ルニ。我監獄ノ下。法制未ク全ク備ハラス。就中。旧政府ノ下
ニ在リテハ。刑罰ノ主義。輕重斟酌ノ法則。囚徒誘導ノ方便。稍
々其制規ヲ存スルモ。今日ニ當リ。捨旧就新。改正ノ急務。大ニ
其要ヲ感ヤリ。然ルニ。諛件ノ如キハ。一國ノ生命ニ関スル改
正ナレハ。謾ニ新奇ヲ造化セハ。實際ノ適用ヲ失レ。大ニ前途
ヲ誤ルヲ恐ル。然ル片ハ。宜シク外邦先進ノ國ニ就キ。其制度
ヲ考ヘ。其實際經驗ノ成績ヲ學々。其料ヲ採キ。以テ道理ニ基
キ。斟酌取捨セハ。又大過ナカルヘシ。

一般政治改正ノ一。我政府一モ敢テ妄造ラ欲ヤス。必ス先キ
ニ實際ノ適用ヲ考フ。故ニ内務。司法。文部。工部。大藏。海陸兩軍。
勸業農ノ諸省。各已ニ其委員ヲ各國ニ派出シ。其地ニ就キ。歐
洲人民廣大富強ノ依テ基ク。以所ノ制規ヲ精研セシメタリ。
然ルニ。監獄ノ一ニ且テハ。我政府大警視ニ命シ。其委員ヲ卒
々自ラ往テ。政本右國ヲ歴觀シ。其制度法則ヲ調ヘシム。

我等委員。此ノ特命ヲ受ケ。敢テ辞ヤス。我政府ノ委任シタル
事業ハ。必ス其目的ヲ達シ。以テ復命センヲ誓ヘリ。是ヲ以
テ。前進願ヒス。未テ各國政府ニ就キ。其好意ヲ冀フ。若シ各國
政府。幸ニ我等委員ノ意ヲ憐ミ。監獄ノ門ヲ開キ。我等委員ヲ

シテ。獄刑實際ノ施行ヲ見ルヲ許シ。且ツ取調タル質問録
ノ条々ニ答辨ヲ賜フヲ得ハ。獨リ我等委員ノ幸ノミナラ
ス。後日。我日本ヲシテ人權ヲ保護シ。國安ヲ保全スヘキ監獄
ヲ設クルヲ得ヤレムモ。亦タ右國政府文明ノ餘澤ナリ
ト爾云。

皇歷明治十二年

監獄取調委員

西歷一千八百七十九年

小野田元熙

歐水各國監獄質問錄目次

第一款 獄則

從第一至第十一條

第二款 管理及之監察

從第十二至第十七條

第三款 獄吏

從第十八至第三十條

第四款 入監一式

從第三十一至第三十八條

第五款 規 律

從第三十九至第四十七條

第六款 赦法及之教育

從第四十八至第五十九條

第七款 內外通信

書狀 贖物

從第六十至第七十條

第八款 工役及之工錢

從第七十一至九十五條

第九款 恩典

從第百九十六條

第十款 罰則

從第百九十一條

第十一款 逃亡

從第百八十六條

第十二款 囚負

從第百八十二條

第十三款

獄者健康 景况 食料 衣服

從第百七十七條

第十四款 放免

從第百七十二條

第十五款 刑期計算

從第百六十六條

第十六款 未決監

從第百五十九條

第十七款 女監

從第百五十四條

第十八款 少年監

從第百四十九條

第十九款 負債勾當

從第百九十五條

第二十款 國事犯囚

禁獄 重禁獄 汎刑及之 從第二百四條

第二十一款 徒刑囚及遷島囚

懲治囚 從第二百三十二條

第二十二款 監獄費用

從第二百四十二條

第二十三款 死刑

從第二百五十一條

畢

第九款 恩典

從第百九十六條

第十款 罰則

從第百九十一條

第十一款 逃亡

從第百八十六條

第十二款 囚負

從第百八十二條

第十三款

獄者健康 景况 食料 衣服

從第百七十七條

第十四款 放免

從第百七十二條

第十五款 刑期計算

從第百六十六條

第十六款 未決監

從第百五十九條

第十七款 女監

從第百五十四條

第十八款 少年監

從第百四十九條

第十九款 負債勾當

從第百九十五條

第二十款 國事犯囚

禁獄 重禁獄 汎刑及之 從第二百四條

第二十一款 徒刑囚及遷島囚

懲治囚 從第二百三十二條

第二十二款 監獄費用

從第二百四十二條

第二十三款 死刑

從第二百五十一條

畢

監ニハ一年一日ニ下ノ囚徒ヲ置ク
 二中央監吏ニ分テ中央懲治監及々中
 央重罪監トレ都ラ一年ニ上ノ刑人
 ラ置ク
 三流刑場トシバカレ社リ懲役及々流刑
 ノ囚徒ヲ遷置ス
 四ベルイル島ノ城塞国事犯禁獄一年
 一月ニ下ノ囚人ヲ置ク
 五少年監十六才ニ下ノ幼年囚ヲ置
 巴里府内ニハ郡獄ノ未決監待裁監

及々懲治監ノミヲ設
 右府内設立ノ獄舎ハ其敷允ソ九監ア
 リ一巴里府内ニテ一十管大視分署ヲ置クト共
内ニテ一十管大視分署ヲ置クト共
人ヲ置クト共
所屬送ル拘留
 一警視廳屬拘留所右ハ一時捕逮人ヲ
 置ク内部分テ男婦女區トシ吏ニ毎
 廨ヲ分テ方房部雜居部トス分房部
 ニハ拘留人ニテ格別ノ警察ヲ要ス
 ル者ヲ置ク

拘留所ハ一切刑事ノ犯人及行政
上ノ犯人且ワ諸獄在監ノ囚徒ニテ
赦免ノ後大警視柙別ノ監察ヲ要ス
ヘキ者等ヲ入ル

現行犯罪法施行上ニ付拘留所内更
ニ一區ヲ設ケ病室ヲ付レ狂癲者兼
兒迷児着リハ老衰無垢ノ者ヲ拘留
ス老衰無垢者ニハ警視廳ヨリ給育
ノ手續ニテ拘留ス

二未決監及々輕罪懲治監右ハ「マゼス

ノ獄ヲ以テ之レニ備ヘ犯罪未決囚
及々輕罪懲治囚_ニ下ヲ置キ_テ
晝夜共ニ分房ノ制ニ属ス

三幼年懲治教育監右ハ未決及々懲治
監ニレテ獄則ハ分房ノ制ニ属シ十
六才_ニ下ノ幼年未決及々輕罪已決
囚及々刑法ノ第六十六第六十七條
故意_テ犯罪_ヲ犯_シテ_ハ故意_者ニ_テ從_リテ_ハ裁判
ヲ受_ケレ_ル幼年囚及々父母類ニ囚リ
入監_マシ_ル幼年_ニ民_法第_三百_七十_七條_ヲ

置

四「サ」テ「ト」ノ未決及々懲治監右ハ輕
 罪已決囚及々政府ニ對シタル負債
 人ヲ置ク獄刑ハ兩様アリ一部ハ在
 ク昼夜分房ノ制トシ一部ハ各房分
 房ノ兩制ニシテ即チ昼間雜居ニ役
 レ夜間分房トス
 設監ノ分房部ニハ「サ」サス「ル」獄充満シ
 テ場所ナキ未決囚及々已決囚就中
 一年已上ノ刑罰ヲ受レ者ナレバ分房

監獄條例ニ拠リ巴里府獄在監ヲ許
 ス囚徒ヲ置ク右分房監獄條例ハ設
 質問録第三回ノ条ニ記クヘシ
 設監ニハ「ア」ニ中央病監ヲ設ケ各獄
 ノ病室ニテ療養シ難キ病囚ヲ置ク
 五「サ」ントペラ「シ」ノ懲治監右ハ初犯
 已決囚^{ハ再犯者ニ非常人ニ對シタル償}
 金不償囚及々國事犯囚ヲ置ク獄刑
 ハ國事犯囚ハ分房ニ屬シ其他ハ雜
 居制ニ屬ス

六「カンラガール」ノ女監右ハ未決待裁
 懲治及々教育監ニテ偏ニ一切ノ女囚
 及々如女囚ヲ置ク獄刑ハ雜居制ニシ
 テ未決囚待裁囚輕重罪已決囚違式已
 決囚父母ノ親ニ囚リ入監シタル如女
 囚及々刑法ノ第六十六第六十七條ニ
 拠リ裁判ヲ受ケタル如女囚ヲ置ク
 談監内刑ニ一層アリテ専ラ娼妓囚ヲ
 置キ更ニ特別ノ病室アリテ娼妓囚ノ
 溢疾者ヲ療ス

談監内ニ麥餅製造所諸物品所布換所
 アリテ「ヤース」郡内諸民獄ノ使用ニ供
 ス
 七待裁監 エノスーザンストロ 監制ニ様アリ
 テ分房部ハ重罪裁判所ノ呼出ヲ受レ
 未決囚ヲ置キ雜居室ニハ違式囚 紳馬者申
 等 解ノ違者 式ヲ置ク
 ハ「グランドロケット」ノ已決囚酒所右ハ
 共質ハ懲治監ニテ獄刑ハ昼間雜居工
 役シ夜間分房ス談監ノ囚徒ハ死刑ノ

宣告ヲ受レ因一年セ下ノ刑ヲ受レ
再犯因及々其他一切ノ重罪因ニテ
懲役場及々中央監ニ送移スヘキ已
次曰ヲ置ク

九「カ」ンドニールノ監有懲治監及々乞食
監ナリ獄制ハ全ク雜居ノ制ニレテ
男女屢ヲ異ニス右監ノ囚徒ハ最少
ノ懲治刑ヲ受ケ巴里府内獄丸滿シ
テ場所ナキ囚徒及々行政上ノ規律
ニ依リ或ハ教育ノ手段ヲ以テ監視

第二條

問

全国ノ獄制ハ國法アリテ確立スル
カ將タ行政權ノ便宜ニ任スルカ

答

国内ニ監獄ヲ設ユスルハ國法自
ラ定ムル所ナリ刑事ニテ然レ尺
獄制ノ下ハ國法更ニ一定ノ規律制
度ヲ掲ケス十分施行ノ權ヲ行政官
ニ委子適宜ニ因リ刑度ノ宜シキヲ

取リ布告ヲ以テ獄制ヲ定メ国内ニ
 布カレム布ノ布告建政府布告又諸及布
書交地取リ胡ヲ輯ノ名ケテ監獄法トス
 然レ共獨リ分房監獄ノ下ハ新ニ国
 法アリテ規律ヲ定メタリ右ノ新法
 ハ次ノ若ニ詳ナリ
 第三條
 問 分房ノ制ハ全国ノ獄舎悉皆施行ス
 ルカ將タ右房制ヲ兼行スルカ果レ
 テ然ラハ如何ナル罪科ノ者ニ分房

刑ヲ施スカ
 答 郡獄ノ未決監待裁監輕罪懲治監ハ
 分法制ヲ以テ国法上一般ノ^短短ト
 ス
 千八百七十五年五月五日ノ法ニ云
 フ未決及々待裁囚ハ昼夜共ニ万房
 セシムヘシ
 一年一月モ下ノ輕罪也次囚ハ分房
 監ニ置クヘシ
 一年モ上ノ已次囚ハ當人ノ類ニ依

リ分房監ニ置クヲ得ヘシ然ルハ

ハ郡獄ニ留置スヘシ

巴里府ニテハ右等ノ囚徒ハ「サ」ニテ

「レ」ノ懲治監ニ置ク

巴里府内ニテ分房ノ制ヲ設ケシ諸

獄ハ已ニ第一者ニ述ル如シ

第四條

問 分房ノ制ハ昼夜共ニ同居マシムル

力或ハ昼間雜居シテ工役シ夜間ノ

分房マシムルカ

答 分房ノ制ハ昼夜共ニ同居マシムル

ヲ定規トス

第五條

問 各房ノ制ヲ行制フ獄舎ハ内部ニテ犯

状ノ種類ニ因リ囚徒ヲ展別スルカ

果シテ然ラハ其展別ノ立方如何

答 犯罪種類ニ依リ囚徒ヲ囚カスル

ハ警視廳ニテモ戒丈々大悪人ト小

悪人トヲ混居マシメサルヲ務ム

罪因ヲ區別スルニハ犯罪ノ種類ニ

依ル故ニ人ヲ打チ人ヲ傷ケ官命ヲ
殺セヌ者ヲ助ケ警察吏ニ托シ隠蔽
ノ實真ヲ賣ル等ノ犯罪囚ニテ其刑
一月以上ノ者ハ集メテ一區部トス
恠ラ人ノ賊ヲ掠メ人ノ寄托ヲ守ラ
ス乞食ヲ事トスル犯罪ニテ其刑一
月以上ノ者及々盜賊最少ノ刑ヲ受
シ者及々初犯ノ犯罪囚右ノ三種ヲ
集メ又一區部トス
盜罪一月以上ノ者無宥ノ者赦免後

第六條

監視ノ規則ヲ破リ其住所ヲ離ル者
ヲ集メ又夕更ニ一區部トス
壯年者ニシテ二十才以下ノ囚刑期
一月以下ノ者凡俗ニ関スル犯罪ノ
者ハ大概子分房獄ニ入ル、
ア
トテテ
問 輿論ニテ分房名房ノ中伺レテ是ト
スル才埃隣上ニテ利害得失及々其
理如何

著 刑期ノ永カラサル囚徒ニハ雜居刑
 ヨリモ分房制ヲ以テ適中トス
 第一囚徒獨居シテ他囚ト相接セサ
 ルヲ以テ惡事ヲ伺知スルノ弊ナシ
 刑律嚴責ノ點ヨリ考ルモ其本質ヲ
 失マス殊ニ獨居セルヲ以テ囚徒自
 ラ已往ヲ考ヘ後來ヲ慮リ陰ニ忌戒
 ノ念ヲ生シセシヲ顧ルニ至ル故ニ
 刑法ノ第一要典ナル犯罪ヲ嚴罰シ
 善良ニ誘導シ再犯ヲ減スル主義モ

第七條

・ 願ル其目的ヲ達スルニ似タリ
 問 分房合房共ニ獄舎ノ制ハ罪囚一人
 ニ付居室散步場其他ノ建物凡ソ幾
 尺才位ナルカ
 答 分房制一室廣狹ノ定規ハ長廿九ソ
 四メートル廣廿ニメートルニ十五
 「ヤ」チノートル高廿三「メ」ートルト
 ス
 分房散步場ハ長廿九ソ九「メ」ートル

廣十九ノ三ノト
雜居制一室ノ廣狹ハ囚徒負數ノ多
少ト建築ノ模様ニ依リ異ナルヲ以
テ預カレノ一囚ニ廿キ幾許ト定ム
ルノ規則ナレ

第八條

問 監浴室ニテ獄舎ノ制ハ囚徒概テ或
許負ヲ入ル、ヲ以テ定規トスルノ
刑アルカ

答 巴里府内分房監内ニテハ囚徒ノ負

數ハ分房室ノ多寡ニ因リ増減アリ
時アリテハ互ニ相監視セシムル為
メニ一分房室ニ二人ヲ入ル、トア
リ
又「又」郡總獄ヲ名セ分房室ノ數ニ
千四百二十室ニテ雜居制囚徒ノ場
所ノ數四千二百五十四坐ナリ

第九條

問 全国ノ首府ニ設クル獄舎ニ入監ス
ル者ハ何等ノ刑人ニ限ルカ

答 設米ハ已ニ第一問ノ著ニ詳ナリ

第十條

問 海陸兵囚獄ハ一種特別ニ設立スル

力

若 海陸軍人ニハ特別ニ一種ノ監獄ヲ

設ク

巴里府内ニハ陸軍人ノ為メニ一監

ヲ設ク

第十一條

問 少年獄ト女囚獄ハ一種特別ニ設立

スルカ將テ獄舎ノ一郭内ニ已分ス

ルカ

答 已ニ第一著ニ述ル如ク巴里府内ニ

テハ幼年囚ノ為メニ別ニ監獄ヲ設

ク執監ノ事ハ第七第八款ノ著ニ詳

述スヘシ

第二款

管理及監察

第十二條

問 全国ノ獄舎ヲ總管スルハ何レノ省

一 屬スルカ其省中ニテハ一ノ司獄
 局ヲ設クルカ其事務章程如何
 至 國ノ監獄ハ中央政府ノ管理ニ屬
 シ監獄一般ノ事務ヲ總ヘ獄則ヲ定
 メ食物及々工役等ノ下ヲ定立スル
 ハ獨リ中央政府ノ權ナリ
 至 國ノ民獄ハ民獄ニ非ハ總テ内務卿
 ノ管轄ニ歸ス十月八日九月十五日
 管轄ノ制度ハ内務省内監獄事務ノ
 一部ヲ置キ該部分テ五局トス第一

第十三條
 局ハ獄吏會計監察其他ノ雜務ヲ司
 トル第二局ハ郡獄木次監待裁監懲
 治監拘留所ノ事務ヲ司トル第三局
 ハ中央輕重罪監農業監ノ事務ヲ司
 ル第四局ハ幼年監赦免者保護ノ事
 務ヲ司トル第五局ハ囚徒送移ノ事
 務ヲ司トル
 該部ニ一部長ヲ置キ監獄事務總官
 トレ五局ヲ總ヘ内務卿ト評議ス

問 地方 = 配置スル 獄舎ハ 地方長 = 委

任レ 首府ノ 獄舎ハ 警察長 = 委任ス

ルカ 然ル 片ハ 其 委任スル 事務ト 本

局 直管ノ 事務ト 區域 権限 如何

答 若部ニテハ 郡長 中央政府ノ 名代人

トナリ 一般 配下 民獄ノ 事務ヲ 司ト

ル

巴里ニテハ 府内ノ 諸獄 總テ 大警視

ノ 管轄ニ 歸シ 前上 第一 首ニ 述テ 凡

如ク 獄數 九 監 十レ 尺 支配ノ 制度均

一ニシテ 一 監モ 特別 獨立ノ 制ナキ

ヲ以テ 事務上ヨリ 見レハ 九 監アル

ニ 尚ホ 一 監アルカ 如シ

故ニ 大警視ニ 内務 卿 指揮ノ 下ニ 居

リ 府内 諸 監獄 一切ノ 事務 及々 経済

ノ 一ヲ 管轄ス

然レ 右ノ 諸 監獄 持主ノ 權ハ 「マ」ト

郡ノ 所有ナレハ 監獄 監察ノ 一 建物

支^部 署ノ 一ハ 「マ」ト 府長ノ 権内ニ 在

リ 故ニ 監獄 建築ノ 一 備 繕ノ 一 「マ」

道府長ノ事務ナリ

第十四條

問 殖民地ノ獄舎及々海陸兵囚獄舎ノ

管轄事務ハ何省ニ屬スルカ

答 軍獄ノ總理事務ハ一切陸軍卿ニ屬

レ植民地及々海港ノ監獄總理事務

ハ一切海軍卿ニ屬ス

第十五條

問 殖民地ノ獄舎及々兵囚獄舎ノ事務

ハ一切民獄司本月ノ干涉スルナ

答 内務卿ハ偏ニ民獄ノ事務ヲ總理ス

第十六條

問 全国獄舎監察ノ方法如何常置監察

使ノ制アルカ其制度如何特置巡察

使ノ制アルカ果シテ然ラハ其命任

ノ法及々其事務如何

答 大警視ハマシ又監獄一切ノ事務ヲ

監察ス其補助トシテ更ニ一局ヲ設

ケ監獄局ト稱シ監督一人ヲ置ク右

ノ監督ハ大警視ノ撰ニテ内務卿
ノ名任スル官ナリ「サレラザル」止女
監ニハ月俸ノ手續キニテ女監督一
人ヲ設ク
監獄事務総官ノ側ニ監察評議官ノ
一部ヲ置ク右ハ監督使ヲ以テ獨立
ス監督使「下」又「監獄ヲ除ク」外
全国ノ民獄ヲ巡察スル「ヲ」掌

第十七條

問 囚獄會議ハ毎歲開設スルカ議員ハ

何官ナルカ議長ハ誰ナルカ其評議
スル事務如何及々其評論レタル決
議ノ効力如何

答 内務省中ニ監獄上等評議官ヲ置ク

其員四十三人ニシテ内十六員ハ專
任官其他ノ二十七員ハ内務卿ノ撰
「所」ニテ元先例員評議人學士員旧官
吏若クハ現官吏旧判事若シクハ現
判事著述者赦免者保護會社員中ヨリ
撰取ス

評議官ハ其員中ノ一人ヲ撰ミ奉テ副
議長トス評議ノ座ニハ内務卿議長ヲ
リ内卿不在ノ片ハ内務大輔代テ議長
トナシ大輔不在ノ片ハ副議長代テ議長
トナル其任務ハ監獄一切銀款同ヲ評議
シ其目的ヲ内務卿ニ報申シ殊ニ分房
監獄法施行上銀款同ヲ許決ス
其評議ノ決議ハ阜ニ監獄事務ヲ輔助
スルノミニテ必ス施行スヘシト云
追ノ義務トテモノトス

第三款

第十八条

問 獄吏トハ何人ヲ指スカ職制事務章
程如何

答 巴里府内毎獄ノ獄吏ハ獄長一人書
記官番卒長一人
番卒副長數名及ヒ番卒ナリ
ガニラガトルハ女監及ヒ警視廳屬
拘留所女囚區ニハ尼ヲ以テ番人ト
スガニドニ一ノ監内女囚區ニモ女

子ヲ以テ番人トス

第十九條

問 獄長ヲ命スルハ誰ナルカ且ツ獄長

タルニハ如何ナル才学ヲ要スルカ

答 巴里府内ニテハ獄長ノ命任ハ大警

視ヨリ上申レ内務卿命任ス獄長ハ

大概子獄内一等書記官ノ多年其職

ヲ務メ十分ノ知識即テ事ヲ知ルレ

云事ヲアル者ヨリ撰被ス

獄長ノ任ハ其配下獄舎ノ諸務ヲ司ト

リ其他ノ獄吏ハ獄長ノ指揮ヲ受ク

ハレ獄長ハ一般監獄則及ヒ検事ノ

命令ヲ施行スルヲ掌トル

獄長ハ獄舎會計事務願末ヲ大警視

ニ申告ス其他獄務ノ疑問及ヒ決定

ノ条件ハ獄長常ニ警視廳ト往復ス

第二十條

問 每獄ニハ公人ノ性質ヲ領スル書記

官アルカ命任スル者ハ誰ナルカ如

何ナル才学ヲ要スルカ

答 巴里府獄内書記官ノ任ハ簿帳ヲ掌

トリ事務ヲ配達シ毎日囚徒ノ位置

ヲ調考ス書記官ハ公人ノ性質ナシ

右ノ性質ハ獨リ獄長ニ存ス

書記命任ハ大警視ノ權ニテ其行状

ヲ調ハ学識ヲ試験シテ彼ニ命任ス

第二十一条

向 獄吏ニハ品階給俸ノ差等アルカ

答 巴里府獄ニテハ獄長ノ等級三等ニ

分テ書記ハ四等番人ハ二等ニ分ツ

第二十二條

問 其差等ハ獄舎ノ種類ニ因リテ異ナ

ルカ將々一ノ獄舎中ニテモ差等アル

カ

答 一ノ郡ノ諸獄ハ皆同一種ナルヲ

以テ獄吏昇進ノ下ハ同一ニシテ更

ニ獄舎ニ因リテ區別スルヲナシ

第二十三條

問 獄吏在職ノ年限及ヒ昇級ノ法且ツ

年給増子ノ制如何

答 獄吏在職ノ年限ハ三十年トス療疾

ノ外ハ六十才已下ニテ退職料ヲ得

テ棄官スルヲ得ス

上官阙クル毎ニ下官ヲ昇進ス其昇

進ハ年功ト才能トヲ調利シ昇進毎

ニ自ラ給俸ヲ増加ス

第廿四条

向 獄吏解職ノ片報勞金ノ給與法ニ般

ノ文官ト同一ナルカ

答 千八百七十五年六月九日ノ法官

・ 吏退職料條例ハ同レク獄吏ニ適ス

第廿五条

向 毎歳獄吏ノ勤惰ヲ調査シ勤勉衆ニ

越ユル者ニハ賞筆金ヲ給スルノ制

アルカ

答 毎歳書記官及ヒ番人ノ勤務勉強行

状正キ者ニ給俸ノ外ニ賞金ヲ与フ

第廿六条

向 獄長ハ其事務ヲ保証スル為メニ保

証金ヲ出スルアルカ

答 巴里府内ニテハ獄長奉職ノ時其職

務ヲ保証スル為メニ保証金ヲ出ス

右保証金ノ利子ハ金銀依托而名

ニ一アエロヨニヨリ獄長ニ返濟ス

第二十七条

問 看守人ヲ命任スル誰ナルカ且ツ如

何ナル才学ヲ要スルカ

答 巴里獄舎番人ハ大警視之レヲ命任

ス番人タラント欲スル者ハ行状正シ

ク身軀壯強ニシテ読書筆記算学ヲ

知り年齢三十五才已下ナルヲ証

スヘシ

第二十八条

問 看守人ノ本務職分如何

答 番人ハ其上官ニ恭順シ其任ハ獄内

ノ平全ヲ保テ囚徒ヲシテ獄則ヲ守

リ工役ヲ勉強マシム右ノ職務ヲ行

フニハ且シク行状嚴格ニシテ敏捷

剛毅及ヒ待遇ノ厚キヲ要ス

第二十九条

問 看守人ノ定員ハ囚徒ノ多少ニ依リテ割合ヲ立テルカ果シテ然ラハ其割合如何

答 番人ノ數ハ毎監事務繁閑ニ因リテ定ム其事務ノ繁閑ハ毎監ノ獄制囚徒ノ平均數及ヒ獄舎建築ノ模様ニ依リ差等アリ

分房制ノ獄舎ニハ番人ノ數雜居制獄舎ヨリモ二倍ヲ要ス現ニ「エガス」監ニハ千百五十分房室アリテ番人

第三十条

問 看守人獄内配置ノ法及ヒ昼夜看守ノ時間如何

答 番人ハ其看守ノ模様ニ依リ獄舎内ノ処々ニ配置ス其看守ノ時間ハ巴里府九獄毎監差アリテ一ナラス然レハ一般ニ昼ノ看守ハ十二時間ニシテ夜ノ看守ハ四時或ハ五時間毎

ニ交代ス大概一週間ニ二度看守人ノ役ヲ為ス

第四款 入監一式

第三十一条

問 未次已次囚ヲ向ハス入監ノキニ行
フヘキケ条手續如何

答 一切ノ囚徒入監スルキハ第一ニ其
姓名ヲ呼ビ尋テ衣服身体ヲ吟味シ
終テ入監簿帳ニ登記シ右ノ簿帳ハ
其編制法律ニ適ヒ司法上官ノ検査

調印シタルモノナリ

第三十二条

問 監門ニ入テ入監囚籍簿ヲ掌ルハ何
官ナルカ

答 入監簿帳ハ一等書記官之レヲ掌ト
ル

第三十三条

問 入監簿ニ記載スルケ条ハ如何右ノ
簿中ニハ何官命令或ハ宣告ニ依リ
入監スルト云フヲ記載スルカ

第三十四条

問 人相書モ門ニリ記載スルカ

第三十三條係

答 入監簿帳登録ノ條件ハ四徒ノ身分

其容体書入監ノ年月日入監ヲ命シ

タル裁判官ノ姓名其命令ノ年月日

及ヒ犯罪ノ性質等ナリ

第三十五条

問 入監ノ囚籍簿ニハ囚徒ノ写真ヲ映

入スルカ果シテ然ラハ如何ナル罪

科ノ者ヲ写真スルカ若シ右ノ囚寫

真スルヲ拒ムカハ如何

答 無宿乞食初犯囚ノ外其他一切ノ囚

徒ハ警視廳屬拘留_所入監ノ片毎囚ノ

写真ヲ取ル

其写真ハ入監簿中ニ付セズ別ニ犯_レ

跡状局ノ罪人犯跡状ニ添ヘ置ク

囚人ニテ写真ヲ拒ム者ハ至テ稀ナ

リ若シ拒ムカハ強テ写真セズ

第三十六条

問 毎獄ニハ囚實名札帳ノ制アルカ

答 毎獄ニ名札差狹帳アリテ何時ニテ
モ在監囚徒ノ数ヲ知ルニ便ニス

第三十七条

問 罪囚入監スレハ直ニ使役スルカ或
数日念顧ノ時ヲ与ルカ果シテ然ラ
ハ凡ソ幾日ナルカ

答 囚人入監スレハ其職業ト才能トニ
適シタル工役ヲ直ニ与フ右ハ雜居
獄ニテハ嚴格ニ施行スヘキ義務ナ
リ若分房獄ニテ与フヘキ工役ナキ

・ 片ハ入監初日ノ精神ヲ静沈スル爲
メニ書籍ヲ与

第三十八条

問 獄長若シ上官ヨリ差遣シタル入監
状不正ト見認メタルキハ入監ヲ拒
ムノ権アルカ將タ其權ナク入監シ
テ後テ上官ニ照會スルカ

答 獄長ハ格式ノ命令ヲ受クルニ非レ
ハ囚人ヲ入監スルヲ得ス若シ其
命令中疑惑ノ條件アルキハ先ツ入

監シテ後ヲ直ニ其事ヲ上官ニ賈ス

第五款 規律

第三十九條

問 獄則ハ國法ヲ以テ一定スルカ將ク

行政上ノ便宜ニ委子ルカ

答 刑律ノ法制ハ均一ノ主義ナル故ニ

其施行ニ顯ル、所ノ規則モ法律ノ

精神ヲ斟ミ此ノ所口彼ノ人ノ差別

ナク同一ニ般行ス

郡獄内則ハ行政權即チ政府ヨリ預

定スルモノニテ一般ニ規律同一ナ

ルヲテ警ム

第四十條

問 監獄則ノ主意ハ嚇畏ヲ主トスルカ
 將々誘導ヲ主トスルカ或ハ兩様ヲ
 兼テ行フカ罪囚ヲ誘導シ悔悟期望
 シ生セシムルノ術如何法、教育、道義、教
規、則、ヲ、寬
 答 獄則ハ素ヨリ罪囚嚴嚇ノ主意ニ基
 クト雖モ自カラ善良ニ誘導スルノ
 方便アリテ行狀正シキ者ニハ放免

減刑ノ典アリ

小学教授工役宗旨道德ノ教獄長ト
 應接及ヒ親族ノ面會等ヲ以テ囚人
 ヲ善良ニ誘導スルノ方便トス
 眞ニ悔悟ノ意ヲ生シタル囚徒ニ漸
 ヲ以テ獄則ヲ寬ニスルノ規則許
 サル所ナリ
 刑法ハ假出獄ヲ許サス然レ幼年囚
 ノニ獨リ假リニ出獄スルヲ許ス

第四十一條

予日

問 一ヶ月ヲ出テサル如キ入監囚徒ニ
モ誘導ノ制ヲ施スカ將々單ニ嚇畏
ノ制ヲ用フルカ

答 一切ノ囚徒刑年ノ長短ヲ問ハス均
シク同一ノ獄則ニ據ル

第四十二條

問 全國ニ施行スル獄則ノ大體如何

答 獄則大要ノ獄吏ヲ規律スル條件ハ
即チ事務滞ラス獄内ノ安全ヲ旨ト
シ獄則ヲ守リ獄則ノ清潔健康ヲ主

トスル等ニテ人々互ニ相協力勉勵
シテ一般ノ事務ヲ施行スヘキモノ
ナリ

第四十三條

問 每室ニ揭示スル規則如何

答 囚徒ノ室内ニ揭示スル規則ハ日々
ノ課業及ヒ室内ノ雜事ナリ一般ニ
獄則首要ヲ細密ニ施行シタルモノ
ナリ

第四十四條

問 布告布達類ニテ人民一般ノ心得ト

ナルハキモノハ公告毎ニ罪囚ニ觸
示スルカ

答 新ニ頒布スル法令布達類ニテ國ノ

人民ニ関スルモノト雖モ囚徒ニ掲

示スルノ制ナシ

第四十五條

問 新聞紙ハ獄内ニテ閱讀ヲ許サレ

カ其他ノ書籍モ獄内書籍局藏本ノ

外一切閱讀ヲ許サレカ

答 新聞紙若クハ政治ニ関シタル日誌

類ハ絶テ獄内ニ入ル、ヲ禁ス

囚徒ハ獄長格式ノ許可アレハ獄内

書籍室外ノ書ヲ閱スルヲ得ヘシ

第四十六條

問 獨居制ニ處スル罪囚ニハ其刑期ヲ

減縮スルノ制アリカ

答 凡ソ已決囚ニテ始終分房獄ニ入監

スル者ハ其刑期四分ノ一ヲ減ス

石ノ法制ハ三ヶ月已下禁獄ノ囚徒

ニ施行スヘカラス右等ハ全ク其刑
月ヲ充分スヘシ

第四十七條

問 毎日囚徒起臥使役休息運動食事等
ノ時間如何

答 健康囚ハ夏日朝六時ニ起キ春秋ニ
ハ朝六時半冬日ニハ朝七時ニ起立
セシム

午飯ハ朝八時夕飯ハ夕三時ニ與フ
囚徒毎日一時間散歩ス其時刻ハ獄

舎事務ノ模様ニ因リ定ム

夜七時ヲ以テ毎囚寢床ニ就カシム

第六款 教法及ニ教育

第四十八條

問 獄内教法上ノ景况如何

答 囚徒若宗門ノ務ヲ行ハント欲スル
ハハ獄則及ヒ一般ノ安全ニ戾ラサ
ル下ハ直ニ許可ス

第四十九條

問 每獄ニハ相當ノ給料ヲ與ヘタル説

教師アルカ其職務如何

答 一 又 郡 諸 獄 = ハ 政 府 ヲ リ 給 俸 ヲ

與ヘタル 説教師ヲ置ク

右 説 法 師 ハ 獄 舎 内 = 居 住 シ 其 任 ハ

毎 四 ヲ 見 舞 ヒ 説 諭 慰 撫 シ テ 善 良 =

誘 導 スル = 在 リ

第五十條

問 國 教 ノ 礼 拜 式 ハ 獄 内 = テ 施 行 スル

カ 國 教 = 非 サ ル 宗 旨 ノ 礼 拜 式 ハ 如

何

答 説 教 師 ハ 日 曜 日 及 ヒ 祭 日 = 獄 内 ノ

神 堂 = テ 定 式 ノ 國 教 宗 門 礼 拜 式 ヲ

行 フ 右 礼 拜 式 ノ 爲 = 平 日 宗 門 道 徳

ノ 教 育 ハ 加 特 力 教 ヲ 囚 徒 = 授 ク

其 他 外 教 ノ 儀 式 ハ 一 二 ノ 獄 内 = 存

スルノミ

第五十一條

問 國 教 = 非 ラ サ ル 宗 旨 ノ 説 教 師 ハ 獄

内 = 立 入 リ 同 宗 門 ノ 囚 徒 = 説 教 ス

ルヲ許スカ

答

「プロテスタント」宗及「猶太宗」ニ屬ス
ル囚徒ハ其教門ノ宣教師ヲ呼宗旨
ノ助力ヲ受クルヲ得ヘシ

第五十二條

問

說教師ト囚徒交接上ニ付キ規律及
シ監督ノ法如何

答

一切ノ說教師ニシテ獄内ニ來ル
ヲ許シタル者ハ獄内ノ規則ヲ守ル
ヘシ囚徒ノ書翰ヲ取次シ或ハ教門
外ノヲ談話スルヲハ嚴禁トス

第五十三條

問

說教師ハ獄内ニテ宗派ヲ蔓莖スル
等ノ所業ヲ許スカ

答

獄内ニテ宗門ノ蔓莖ヲ謀ルハ嚴
禁ナリ若シ囚徒ノ他宗ニ改門シ
キ者アレハ監獄事務ニテ之ヲ處分
ス

第五十四條

問

罪囚ヲ教育スルハ獄長事務ノ一
ナルカ果シテ然ラハ其目的ヲ達ス

ル為メニ勉ムハキ箇條方法ハ如何
 答 獄長ノ務マハ囚徒ヲ善良ニ誘導ス
 ルニ在リ其為メニ獄長ハ屢々囚徒
 ヲ見舞ニ教諭ヲ與ヘ囚徒親戚ノ取
 次中人トナリ若シテハ良書ヲ讀マ
 シメテ其憂心ヲ慰撫シ殊ニ工役勉
 強ノ真味ト習慣トヲ起サシメ及ヒ
 無学ノ囚徒ヲシテ學校ニ就カシム
 ルヲ務ム

第五十五條

問 每獄ニハ書籍室ヲ設ケルカ如何ナ
 ル書籍ヲ要スルカ其書籍ヲ選ム者
 ハ誰シナルカ罪囚ニ書籍配與ノ法
 如何
 答 巴里府内ノ每獄ニハ各々書籍室ヲ
 リ囚徒ノ使用ニ供ス
 其書籍ハ大概キ道德増識ノ書類ナ
 リ囚徒ハ土曜日ニ目錄上ニテ自ら
 撰ミタル書冊ヲ授キ囚徒ノ尤モ好
 ミテ讀ム書ハ画本及ヒ珍奇ノ史談

第五十六條

問 每獄ニハ学校ヲ設クルカ其制度及

科目ノ立方如何

答 巴里府内ノ每獄ニハ各々一学校アリ

テ囚徒無学ノ者ヲ教ユ其科目ハ

小学科目ナリ即チ習字素讀佛語算

勇武ノ史談ナリ右等ノ讀書ハ囚徒

ノ精神ヲシテ獄内苦惱ノ點ヲ脱セ

シメ一種高上ノ想像ヲ發起セシム

ルヲ以テ教育上大ニ其益アリトス

術初步權衡度量法初步史畧及ヒ地理入門ナリ

第五十七條

問 学校教師ハ囚徒中ヨリ撰擇スルカ

将々常人ヲ備フカ果シテ然ラハ其

常人ハ宗旨ノ人ヲ取ルカ将々尋常ノ

人ヲ取ルカ

答 教師ハ書記官及ヒ番人ノ中ヨリ撰

拔ス

第五十八條

問 毎歳学校ニ出席スル囚徒數幾許
歩スル者幾許

答 囚徒總數ノ内学校出席ノ者現ニ殆
ント三千零七十人アリ
比較表ニ依レハ成績次ノ如シ学校
出席囚徒ノ半ハ讀書筆記ヲ覺ヘ四
分ノ一ハ單ニ讀書ヲ覺ヘ其他ハ一
切覺知ニ乏シ

第五十九條

問 囚徒入監ノ時ト出監ノ時ト教育ノ

景况比較如何

答 囚徒ノ教育アル者ハ書籍室中ノ書
ニ就キ其教育知識ヲ増加スルヲ得
ハシ

入監ノ時一切無学ノ囚徒ニシテ出
監ノ時其獄舎ニテ受ケタル教育ノ
度ハ大概予前條ノ比較表ノ如シ

第七款

内外通信書狀贈物

第六十條

問 獄舎内外書狀ヲ以テ通信スルハ

一切禁止スルカ將テ書記官其書狀ヲ檢閱シ害ナキモノハ其往復ヲ許スカ

答 囚徒ノ外人ト通信ハ一々獄長ノ許可ヲ得ヘシ

囚徒ノ書翰外人ノ書翰共ニ先ツ書

記局ニテ開封ス若シ不正淫行ノ書

翰アレハ直ニ破棄ス

第六十一條

問 囚徒ヨリ上官ニ當テタル書狀ハ如

何

答 司法及ニ行政ノ上官ニ當テタル囚

徒ノ書翰ハ開封セズ獄長直ニ送達

第六十二條

未決囚ノ書狀ハ如何ナル場合ニテ

モ獄長其書翰ヲ破棄セズ直ニ札問

判事ニ送ル

第六十二條

問 囚徒中或ハ非常ノ場合ニテ右ノ檢

閱ヲ要セス書狀ヲ往復スルヲ得

ル者アルカ果シテ然ラハ其檢閲ヲ
要スルニ及ハサル免許ヲ與ルハ誰
ナルカ

答 書翰開閱ノ規則ハ嚴式ニテ如何ナ
ル囚徒ノ書翰ニテモ開閱ヲ經スシ
テ送達スルヲ得ス

第六十三條

問 囚徒ハ平生外人ヨリ贈遺スル金銭
食物衣服寢衣等ヲ受クルトテ許ス
カ果シテ然ラハ其檢閲監察ノ法方

如何

第六十四條

問 若シ其贈物食物ナレハ匠員ノ檢
査ヲ要スルカ

答 囚徒ハ兼テ外人ヨリ金銭食物布類
衣服ヲ受クルトテ許ス然シ驕奢ノ
食物ヲ差入ル、トハ嚴禁トス
已決囚ノ親戚ハ其面會ノ日尋常ノ
食物ヲ囚徒ニ與フルヲ得ヘシ石ニ
付テハ應接所番人ノ監察ヲ要ス若

レ疑フヘキ食物アレハ直ニ獄医ニ
試験セシム

病囚ニ外人ヨリ送ル食物ハ一切獄

医ノ許可ヲ要スヘシ

第六十五條

問 囚徒ハ外人ト面會スルヲ得ルカ

面會スルニハ何官ノ許可ヲ要スル

カ其許可ヲ得ルノ手續如何

答 未決囚ハ糾問判事ノ許可ナキハ

外人ト面會スルヲ得ス

已決囚ハ其親戚ニ非レハ面會スル

ヲ得ス其親戚タルヤ否ヤヲ檢スル

ハ監獄局ノ任ニテ願人ハ同局ニ親

戚証據タル定式ノ公書ヲ出シ面會

ノ許可ヲ乞フヘシ一切面會願ノ下

ハ同局ノ權限内ナリ

面會許狀ニハ願人ノ容体ヲ記載ス

第六十六條

問 面會ノ許可ヲ與フルハ何人ニ限ル

カ度數制限有無如何

答 面會ノ許可ハ預メ許スト毎度頼ノ

上ニ許ストノ二様アリ右ハ面會ヲ

許ス官局ノ命令ニ因リ其等マリ面

會人ハ一週ニ二度面會スルヲ得ハ

シ

第六十七條

問 看守人若クハ其他獄舎傭人ハ囚徒

ノ為メニ監外ニ使ヒスルトヲ得ル

カ果シテ然ラハ其使用監督ノ法如

何

答 番人及ヒ傭人ハ囚徒ノ為メニ監外

ニ使ヒスルト嚴禁ニテ犯ス者アレ

ハ獄則ヲ以テ罰シ其嚴ナル或ハ瘵

職スルニ至ル

第六十八條

問 囚徒ノ父母病氣危篤ニ迫リ生前ノ

面會ヲ乞フキハ看守人ヲ付ケ囚徒

ヲ出シ父母ノ家ニ遣リ面會或ハ葬

送ニ立會スルトアルカ囚徒若シ婚

姻ヲ結フ時モ同シク出監ヲ許スカ

答 囚徒ハ看守人ノ護衛ヲ以テ婚姻ヲ
結ビ或ハ臨終父母生前面會或ハ葬
式立會ノ為メニ出監スルヲ得ヘ
シ
其式終レハ直ニ帰監セシム

第六十九條

問 死刑ノ宣告ヲ受ケシ者ニモ面會
ヲ許スカ

答 死刑ノ宣告ヲ受ケシ者モ大警視
ノ許可ヲ以テ其親戚ノ面會ヲ受

ケルヲ得ヘシ然ル場合ニテハ獄長
ハ万事ニ氣ヲ付ケ預備スヘシ

第七十條

問 内外通信及ヒ親族ノ訪尋ヲ受ルヨ
リ生スル道義上ノ効驗如何

答 経験ニ依レハ囚徒親戚ノ面會ヲ受
ケル者ハ自ラ從順ニナリ已レテ顧
ミルノ効アリ

第八款 使役及ヒ工錢

第七十一條

獄舎經濟
全国中央監ノ費用ハ同
費ニ屬シ之レニキツ
欲

監囚後ノ便役潤金ハ又
 夕目庫ニ収ム然ルニ費
 用ヲ要スルノ條目及々
 政府ヨリ其費用ヲ供ス
 ルノ方便且ツ便役利潤
 金ヲ取立ツルノ方法等
 是レ則チ此篇ノ述ツル
 要目ナリ
 九ノ全同中央監一歳ノ
 費ス野共約四百八十
 二不七千六百二十一
 三十也ニレテ便役ノ生
 スル利潤金五十三万八
 千八百九十七也六十八
 ナリ改ニ費用總高ヨ
 リ便役利潤金ヲ減リ全
 ク政府ノ費ニタルモノ
 ナリ四百二十九万八千
 七百二十三也六十二也
 トス

問 獄内ノ工役ハ刑役ノ主意ナルカ將

ク誘導ノ主意ナルカ未決已決囚ヲ
 論セス一般ニ工役ヲ課スルカ將
 未決囚ハ勝手タルカ

答 獄内ノ工役ハ刑律ノ設クル所ニテ

已決囚ハ強促シテ役ニ就シメ未決
 囚ハ勝手ナリ石ノ工役ハ囚徒ヲ善
 良ニ誘導スル第一肝要ノ道ニテ凡
 ソ罪ヲ犯シ身ヲ失スルハ大概子癩
 怠惰弱ニ基ケレハ工役勉強ノ念ヲ

第七十二條

問 工役ノ種類如何書寫工藝礪山耕作

等ノ中何レヲ用フルカ

答 巴里府獄ニテ女囚ニハ裁縫ノ業ヲ

興ハ用囚ニハ履細工紙ノ張り子細
 工草紙帳面細工等種々ノ工藝ヲ興

第七十三條

問 工役ノ種類ハ罪名ノ輕重ニ依リ異

然ルニ若利潤収納金中
 一ハ三少年並ニ一エト
 一ト及ヒカニヨリ収メ
 ナリ額ヲ計美スル故ニ
 實際政府ノ費ス所ハ前
 上ノ高ヨリモ多シト知
 ルハレレノ囚徒一日ノ
 生スルモノ八十也四
 ナセトス論者或ハ云フ
 善治ノ國ニハ監費ハ監
 囚自ラ償フベシ故ニ互
 ニク囚徒ヲ勸マシテ役
 フ盛ニシ同ノ元分トナ
 ラス勉強工役シテ其犯
 ス所ノ罪状ヲ償フベシ
 ト此説ハ大ニ監獄ノ主
 意ニ背クモノナリ凡ソ
 監獄ノ主トスル所ハ犯
 人ヲ誘導シテ善良ニ帰
 セシムルニ在リ然ルニ

論者ノ説ノ如クスルハ
ハ政府遂ニ囚徒ヲ驅テ
利ヲ射ルノ漸ヲ求メヤ
必定ナリ然レ囚徒ニ工
役ヲ与ヘ監獄ノ経済ヲ
計ルハ又々監治ノ要日
ニシテ仙國二十年來ノ
監治経済ノ事ハ又々賞
答ハ一モモノ多シ
監賞ノ大目カテ教條ト
ス内獄吏給俸及々臨時
費用ノ條ハ政府ノ直ト
ナレハ篇中其細目ヲ畧
ス一抵獄吏ノ給俸ハ寡
クニシテ其當ヲ得ス今
少シク増給アリテ勤勞
ノ人ニ報ユルヲ要シ夫
レヨリレテ獄吏ノ撰擧
モ下官ノ人ニ取ラス自
カラ上官ノ人ヲ擧ケレ

ナルカ將タ同一ナルカ

答

工役ノ種類ハ罪名ノ輕重ニテ異ナ
ラサレヒ人々ノ職業才智ニ隨テ差
等アリ

第七十四條

問

工役ノ制度如何其制度ハ獨リ官司
工役ナルカ將タ受員工役ヲ兼用ス
ルカ右兩制ノ内ニテ何レヲ善シト
スルカ其利害得失ノ理如何

答

巴里府獄ニテハ工役ノ制度ハ受員工

ハヘレ英國ニテハ大監
獄長ハ上等士官ヨリ
撰擧レ其給俸ハ非役給
料ノ外概テ一才五干ハ
ヨリニ才十干ヲ得然レ
ニハ囚獄吏ノ位置ハ右
ノ如クナレハ上等士官
等ニテ已ニ其功勞ヲ歴
タルモノヲレテ些少ノ
給俸ヲ以テ獄吏任任ノ
ヲ希望セシムルモ亦
難シ
監賞中ノ最大條目ハ囚
徒費用額トス右ノ
費用ヲ辨スルノ方法ニ
端アリ受員工役官司工
役是レナリ受員工役ト
ハ政府受員工ト條約ヲ
結ビ工役一切ノヲ受
員工ニ托議ス受員工ハ

工役ノ制ヲ用ヒ官司ヨリ常ニ其受員工

ヲ監督ス右受員工役ノ制ハ官司工

役ヨリニ其利益殊ニ多シ其譯ハ官

吏ノ身分ニテハ製造商實際ノ事

ニ慣レス殊ニ十分射利ニ熱心スル

ト能ハス又十分ノ努動力ヲ製工上

ニ施スノ暇ナキヲ以テナリ然ルニ

常ノ製造人ハ一身ノ利ヲ謀ル者ナ

レハ右等ノ事ハ其特前ナレハ製造

ノ運歩甚タ多シ故ニ受員工ノ制ヲ以

義務債即十條
 出レ因徒一切ノ費用其
 他民法第千七百五十四
 條ノ借屋預料費ノ内
 七及ニ義務債中ニ載セ
 タル別ノ借給費ヲ供シ
 且ツ工役ノ因徒ニ致セ
 賃銀ヲ与エルトニ任ス
 右賃金ノ高ハ定規アリ
 下ニ説クヘレ右ノ如ク
 政府ハ一切ノ費用ヲ受
 負人ニ任セ因徒ノ工役
 ヲ托スル改其工役ヨリ
 生スル一切ノ利潤金ハ
 受負人ノ得ナリ右利
 潤金得分ノ外ニ政府ヨ
 リ毎日幾戈及ニ毎因徒
 式ト定メタル給料ヲ受
 負人ニ与テ其給料ト定
 ムルニハ説下賣法

テ可トス

第七十五條

問 受負人ハ獄舎ニ對シテ如何ナル義務アルカ

答 巴里府獄内ニテハ工役受負人ハ休
 業ナキ様ニ工作ヲ因徒ニ供スヘキ
 義務アリ製造細工ニ要用ノ物品及
 ニ器械ト温室及ニ燈火ハ受負人ノ
 入費ナリ若シ製造品粗悪ニシテ其
 利ナキ時ハ受負人ノ損失トス其他

又
 〇官司工役ト
 ハ政府自ラ工役一切ノ
 所ノ利潤ヲ取ル依テ因
 徒一切ノ費用及ニ並因
 徒器ノ費用ニ政府ノ辨
 供スル所トス譬ハハ農
 業同業ニ工役スル中其
 並ナレハ因徒ヨリ生ス
 ル利潤金ヲ以テ並費ヲ
 償ヒ其殘金ハ政府ノ得
 分ナリ若シ又ニ製造ニ
 工役スル並ナレハ政府
 ハ他ノ製造人ト協約ヲ
 結ビ製造人ハ裁許ノ金
 ヲ出レ因徒ニ工役ヲ授
 ケ其製造ヨリ生スルモ
 ノヲ取ル即チ因徒ヲ備
 ニ製造人ヲ計ルモノナ
 リ然レニ此方法ニテハ

受負人ハ獄内ノ規律ヲ順行スヘシ

第七十六條

問 工役ヲ授クルニハ囚徒平生ノ職業ニ基クカ平生一切ノ職業ヲ知ラザル囚徒ニハ如何ナル手立アルカ

答 囚徒ニ工役ヲ授クルニハ其平生ノ職業ニ基クト雖モ亦獄内製造所ノ要用ヲ測カサル様ニ注意ス平生一切ノ職業ヲ知ラザル者或ハ其職業獄内ノ製造ニ適セザル者ハ

政府ヨリ全ク工役ヲ管
 司セス其半ハ製造人ニ
 譲リタレハ本全ノ官司
 工役トハ去ヒ難ク即チ
 受員工役ト官司工役ノ
 間ニ位ニ半面受員ト故
 スルモノナリ兩盤ヲ工
 役スル中央監ノ本全
 ノ官司工役トス
 右ノニ法中官司工役ニ
 々ハ政府監内ノ工役事
 務ヲ全有スレモ受員工
 役ニテハ共事務ノ一カ
 ヲ受員人ニ譲与レタル
 事ナリ當時全同中央監
 ノ大半ハ受員工役ニ屬
 スルモノ多シ然ルニニ
 同ノ利害得失ハ今日經
 験中ナレハ未タ確言レ
 難ク論者ニ黨ニ分レ各

第七十七條
 問 工役ヨリ生スル益金ハ獄費ノ為メ
 一切官ニ収ムルカ將ク其一分ヲ
 以テ囚産ト稱シ囚徒ニ給與スルカ
 巴里府獄内ニテハ工役ヨリ生スル
 益金ハ其半即チ十分ノ五ヲ官ニ収
 ヲ其他ノ半ハ全ク囚徒ニ給與又
 未決囚ノ工役ヨリ生スル益金ハ其

答 巴里府獄内ニテハ工役ヨリ生スル
 益金ハ其半即チ十分ノ五ヲ官ニ収
 ヲ其他ノ半ハ全ク囚徒ニ給與又
 未決囚ノ工役ヨリ生スル益金ハ其

得夫アリ故ニ先年監
 獄取調官ヲ置キ其事ヲ
 司トラシメ更ニ控訴裁
 判所ノ判事及ヒ諸縣監
 獄長ニ令レ各其説ヲ述
 ヘシメレニ二則各其黨
 多ク議論遂ニ一定マテ
 リケリ
 別國ヲ統觀スレニ歐國
 ニテハ受員工役ノ制多
 シ然レ政府ニテハ受員
 人ヲ採擧スルコト苦ム
 トノコトナリ建國ニテハ
 一般受員工役トス白平
 義ニテハ兩則並設スレ
 且大監ハ一般ニ官司工
 役ナリ政府ニテモ官司
 工役ヲ擴張スルコト務
 マリ一般赦回ノ制ニテ
 獄長ハ自費ヲ以テ囚徒

十分ノ三ヲ官ニ収メ其他ノ七分ヲ
 全ク囚徒ニ給與ス右ノ七分ノ益金
 ハ囚徒直ニ隨意ニ費用スルヲ得又
 已決囚ノ如キ貯錢ノ制ナシ

第七十八條
 問 其給與スル囚産ハ益金幾分ノ割合
 ナルカ囚産日分ニ日用錢ト貯金ト
 人區別アルカ然チ其割合如何

第七十九條
 問 囚産ヲ分チ日用錢ト貯錢トノ區別

予日

ニ工役品ヲ役ケ共製造
 コリ生スル所ノ利潤金
 以テ其費ヲ償ヒ及ヒ
 其得金ヲ取ルルニ其
 得金ハ二万仙ヲ過ルヲ
 得ス若シ獄長自カラ囚
 徒ニ工役ヲ役クルヲ
 得カル片ハ陸軍或ハ海
 軍省ト謀リ四省ノ要ス
 ル製造ヲ引受ク若シ四
 省ニテ托スヘキ工役ナ
 クハ獄長乃チ他ノ製
 造人ト相談シ工役ヲ引
 受ケレム故ニ平常ハ官
 司工役ニシテ受員工役
 ハ官ヨリ囚徒ニシテ工
 役トキハニ行フモノナ
 リ然ルニ其受員工役ニ
 受員工役ニ非スレバ即チ半
 面受員 日耳曼ニテハ官
 司工役ヲ以テ一般ノ制

トス阿蘭陀及ヒ伊太利
 ニテハ内刑事設ク刑ナ
 リ瑞西及ヒ瑞典ニテハ
 官司工役ヲ以テ一般ノ
 制トス
 米利堅合衆國ニテハ受
 員工役ノ制多ク官司工
 役ハ監獄十ノ一ナリ
 英國ニテハ官司工役ヲ
 以テ一般ノ制トシ受員
 工役ハ殆ド之レナシ
 前記述フル所々モノニ
 依リテ考フルニ列國ニ
 役ノ制ハ官司工役ノ制
 多ク受員工役ノ制少ナ
 シ殊ニ受員工役ヲ設レ
 ノ國ニテモ其制ハ本金
 ノ受員ニ非ズ即チ半面
 ノ受員工役ナリ故ニ受
 員人ハ金ヲ出シテ囚徒

アルカ然ラハ其割合如何

第七十八條 答 益金十分ノ五ヲ以テ囚産トス

右ノ囚産ヲ半分シテ日用錢ト貯錢
 トニ區別ス日用錢ハ囚徒在監ノ間
 日々私用ニ費用スルヲ得貯錢ハ
 出盤ノ日ニ給與ス

第八十條

問 囚徒官ヨリ給與シタル物品ヲ損傷
 スル等ノキハ右ノ貯錢ヲ以テ償却
 セシムルヤ及ヒ罰則ニ觸レテ罰金

ヲ出ス時モ同シク貯錢ヲ以テ上納
 スルノ制アルカ

答 故意ト或ハ誤テ官物ヲ損傷シタル

キハ右ノ日用錢ヲ以テ償却セシム
 ルトヲ得ハシ然レ罰金ハ己ニ獄内
 則ノ得テ處置ス可ラナルモノナレ
 ハ日用錢ヲ以テ上納スルノ制ナシ

第八十一條

問 貯金ハ囚徒出監迄官ニテ銀行等ニ
 預ケ置キ利子ヲ生セシムルノ制ア

ノ手業ヲ借リ受ケテ工
 役ヲ授ケ共製造ヨリ生
 スルモノニ付テ利潤ヲ
 計ルノミニテ囚徒一切
 ノ費用ハ天張リ政府ノ
 費用ナリ本全ノ受員工
 役ハ他國格別ノ制ニテ
 列國中絶テ其例ナレ故
 ニ列國ノ論者右ノ兩制
 ヲ議スル者頗ル多シ
 受員工役ノ利害ヲ論ス
 ルニハ經濟上ト請善上
 ヲリ論スヘシ
 第一ニ經濟上ヨリ受員
 工役ヲ論スルニ官司工
 役ト大ニ異ナルケ條ナ
 ク「グレムボ」ハ官司工
 役ノ監ナレ共其生スル
 利潤全及ヒ囚徒費用ノ
 高ハ巴里近傍ノ受員工

ルカ

答 貯錢囚徒出監迄銀行ニ預ケ利子ヲ

生セシムルノ制ナシ

第八十二條

問 囚徒ハ一切貯錢ニ手ヲ付クルコトヲ

禁スルカ或ハ場合ニヨリ貯錢ヲ與

フルカ

答 如何ナル場合ニテモ囚徒ハ貯錢ニ

手ヲ付クルコトヲ得ス

右ノ貯錢ハ出監ノ時ニ非ハレハ與

役監ト大ニ異ナラス概
 テ官司受員共ニ囚徒一
 日ノ生スルモノ九十ヤ
 内外ナリ殊ニ受員工役
 ノ利ヲ擧ケレハ受員人
 ハ自己ノ利益ヲ計レ故
 ニ工役一切ノコトニ付テ
 極メテ經濟ヲ主トスヘ
 シ政府ニテ官司スルキ
 ハ或ハ殊畧ニ至ルナリ
 又タ官司工役ノ利ヲ擧
 レハ政府ニテ自ラ製造
 ヲ計ルコトナレ共其生ス
 ル所ノ利潤全ハ全ク政
 府ニ歸スル故其利益少
 ナカラサルヘシ故ニ經
 濟上ヨリ論スレハ官司
 受員ノ兩制共一齊ニ大
 ナリ多年經驗ノ積ニ非
 カレハ確定シ難キモノ

ハス

第八十三條

問 囚徒毎日ノ賃錢ヲ定ムルノ方法如

何

答 囚徒毎日工役ノ賃錢ハ豫メ商法會

議所ヨリ檢議シ大警視ノ承諾ヲ經

タル手業賃料ニ依リテ定ム

第八十四條

問 囚徒ノ賃錢ト尋常職人ノ賃錢ト其

比較割合如何

第ニ誘善止ヨリ受員ニ
 役ヲ諭スルニ至リ論説
 ニ至ニ別レ當時獄論ノ
 第一班同タリ受員ニ役
 又對者ハ受員ノ制ヲ以
 テ班内ノ善治ヲ好ケ囚
 徒誘導ノ法ニ害アルノ
 制トセリ其言曰九ノ囚
 徒誘導ノ法ハ獨リ獄長
 ノ妙手ニ歸スルモノナ
 リ然ルニ受員人ナルモ
 ノハ囚徒ト相接近シ囚
 徒日々ノ生計利益共ニ
 受員人ノ手ニ在レトナ
 レハ囚徒ヨリ見レキハ
 獄長ヨリニ尚ホ一層貴
 重ノ人トナリ獄長ニ或
 其妙術ヲ施ス能ハス且
 ツ受員人ハ一般囚徒ヲ

答

囚徒ノ賃錢ト尋常職人ノ賃錢トノ
 比較ハ種々不同ナリ然レモ十カラ成
 ル丈ケ尋常職人ノ賃錢ト同一ナル
 一ヲ務ム囚徒賃錢料ノ高クナル
 ハ大ニ益マルトナリ現ニ當時ニテ
 ハ其比較九リ職人賃錢ノ三分一十

第八十五條

問

囚徒ニハ就役初日ヨリ賃錢ヲ給ス
 ルカ

罪ヲ自己ノ利益ヲ計ル
 フ以テ主意トスルモノ
 アレハ囚徒ハ自ら慎恐
 ノ情ヲ發起スルコトアル
 ヘレ受員人ノ才ニテモ
 已レ利益ヲ見レキハ
 不正ノ方便ヲモ施行ス
 ルニ至ルヘレ殊ニ監治
 上ニ付テ尤モ恐ルヘキ
 障害ヲ生スルコトアリ其
 譯ハ前上ニ述フル如ク
 受員人ノ利益ヲ計ルモ
 ノナレハ若シ政府ヨリ
 設立セシト欲スル新法
 ニテ少シク利益ニ害ア
 レバハ忍テ故障ヲ申レ
 立ルナリ然ルニ受員人
 ハ政府ト條約ヲ結ベ或
 券帳ヲ所持シタルモノ
 ナレハ政府ニテ受員

第八十六條

問

工藝見習ノ囚徒ハ其見習中他囚同
 様ノ賃錢ヲ受クルカ

第八十六條

答

囚徒ハ就役初日ヨリ賃錢ヲ與フ然
 シ工藝見習囚ニハ賃錢ヲ與ヘス
 工藝見習囚ハ賃錢ヲ受ケサレモ其
 工藝ヲ覺ヘ本業ニ就クキハ直ニ賃
 錢ヲ與フ

第八十七條

問

賃錢高ハ初犯再犯或ハ輕罪重罪ノ

人ヲ差置テ成依勝了ニ
可置スレバ能ハサレト
リ改ニ其障害ヲ起シタ
ル例ヲ挙クルニ獄長ハ
誘導ノ為メ囚徒ノ礼拜
日ヲ増加セシテ企テレ
ニ受貞人ニテハ工役ノ
時間ヲ減スル故ニ不承
知ヲ申立テ事遂ニ行ハ
レス又夕刑律ニテ重罪
禁獄囚ト輕罪懲治囚ト
ハ其居住區別スヘキニ
ノナルニ重罪囚ハ在監
久シヤク以テ自カラ工
役製造ニ巧ミナル故受
貞人ニテハ其引受ノ地
ヨリ混居セタル輕重罪
囚ヲ別分テ區別シ輕罪
監ニハ輕罪囚ノミヲ入
ル、トテ拒ミ極々ノ苦

區別ニ依リ差等アルカ

答 巴里獄内ニテハ囚徒犯罪ノ種類ニ

依テ貨錢ノ差等ヲ立ツルトナシ且

ツ未決已決囚共ニ同一ノ貨錢ヲ與

フ

第八十八條

問 臨時賞罰ニ依リ給與スル貨錢ヲ增

減スルトアルカ

答 囚徒ノ貨錢ハ罰ヲ以テ減奪スルト

ナク又賞ヲ以テ増加スルトナシ

情ヲ速ヘタリ其他受貞
人ハ他ヨリ其仲間ノ役
業人並業人等ヲ並門ニ
引入シ工役場ニテ平素
囚徒ト相親近ス然ルニ
其夜業並業人等ニハ獄
長自前ニ命令スレテ得
ス依リテハ囚徒ト接近
ノ際或ハ不正ノ行爲ヲ
行ヒ或ハ其賞答スルニ
ノハ概テ工役勉勵ノ因
由ナリ然ルニ其日徒々
ルヤ必スシモ善良ニ帰
スヘキ囚人ノミニテハ
ナキナリ

囚徒ノ工藝ヲ能クシ勉強スル者其
ノ製造スルモノ多キヲ以テ其利益金
ヲ得ルト亦多シ故ニ賞ハ自ラ其
ノ一身ノ働キニ存ス

第八十九條

問 工役ノ時間ハ何時間ヲ以テ定則ト

スルカ

答 巴里獄内ニテハ工役ノ時間ハ夏日

ハ朝六時半ヨリ夕六時迄冬日ハ朝

七時半ヨリ夕七時迄トシ其ノ中二

り條約シタル義務限中
 條ノ長否一熟ニアレ
 ハ若シ政府ヨリ義務限
 フ設クルレハニ當リ其條
 例ノ政府ニ不都合ナレ
 モノヲ除テ自治自由權
 フ維持スルハ及對前
 者ノ喋々シタル百報ノ
 弊害ハアヲラサレハレ素
 ヲリ政府ハ自治自由
 ニ新則ヲ設クルヲ得ハ
 キモノナレハ何ソ受員
 人ノ障害ニ及タスルノ
 理アラニヤ殊ニ論者所
 謂受員人ノ障害ハ獨リ
 受員工役監ノミナラス
 官司工役監ニミ此々其
 例アリ今之レヲ証スル
 ニ試ニ製造ニ工役ス
 ル官司工役監ヲ視ルニ

第九十條

問 時間ヲ以テ食事散步ノ時間トス
 定時間外ノ工役ハ囚徒ノ望ニ任
 スルカ然ラハ其工役ヨリ生スル益
 金ハ悉皆囚徒ニ給與スルカ將タ定
 規ニ據ルカ
 答 分房獄内ノ囚徒ハ定期時間ノ外ニ
 工役ヲ勉強スルヲ得然シ其工役ヨ
 リ生スル益金ハ尋常益金ノ定規ニ
 據ルハシ

第九十一條

問 如何ナル日ヲ以テ休役スルカ
 答 休役ノ日ハ日曜日ト政府ヨリ定メ
 タル祭日ナリ

第九十二條

問 囚徒若シ父母ノ喪ニ逢フハ休役
 フ與フルカ
 答 定日外ノ休暇ハ獄則内ニ揭示預定
 スルヲ見ス然シ實際ニテハ囚徒ノ
 親戚ノ喪ニ逢ヒ哀痛スル者休暇ヲ

政府ニテハ他ノ製造人
 ト相談シ一切ノ製造物
 ノ因徒ニ供シ且ツ因徒
 ノ賃金ヲ拂ハシ製造
 ヲリ生スル利益金ハ製
 造人ノ利益トス然レ
 ニ共製造人ハ前上ノ受
 員人ト同様ニナリ且ノ
 利益ヲ計リ投票人及
 監業人等ヲ益内ニ誘引
 スルヲナレハ論者ノ受
 員人ノ策ヲ以テ不都合
 ト稱シタル第一點ハ又
 タ官司工役中ニ存在
 スル狀ナリ然ラハ本全
 ノ官司工役乃チ農業同
 等ニ工役スル監ノ如キ
 一切外人ヲ交ニス官更
 ノミニテ官司工役ノ製
 度
 如何日々本全ノ官司

工役ハ其制實際ニ行フ
 可ラスルノ獄吏ノ任ハ
 囚徒ノ善良ニ誘導スル
 ニ在リ然ルニ工役ノ官
 司スルヤハ右ノ誘導文
 一求要スルニ一種高貴
 及ニ製造ニ通達スルノ
 智識ヲ以テマサレテ得
 ス然ルニ誘導ノトト高
 貴ノトトハ雲泥ノ差ヲ
 リテ一ハ道徳ヲ説キ一
 ハ利ニ夫レモリテレハ
 到底一致シ難ク若シ今
 試ミニ其制ヲ行ハ、監
 治遂ニ其當ヲ得カレハ
 シ何トナレハ獄吏若シ
 工役ヲ盛ニスルトテ務
 ムルハ其子生ノ熱心
 ハ利益上ニ在ルヲ以テ
 囚徒ヲ改良シテ道徳ヲ

辱クスルノ法方ヲ忘レ
 若シ又獄吏ノ熱心常ニ
 道徳ヲ以テ囚徒ヲ誘導
 スルニ在ルヤハ工役ノ
 事業ハ自ラ弟ニ段トテ
 リ監治ノ經濟大ニ其目
 的ヲ誤ルヘシ故ニ云フ
 到底獄吏ヲシテ右ノ兩
 事ヲ兼任セシムルハ監
 治學者ノ誤リナリ又々
 及對論者ノ指シテ不都
 合ナトト唱ヘル受賈人
 一監治ニ障害ヲ起スノ
 一點ニ至リテハ政府ト
 受賈人トノ向ニ立テタ
 ル條約書乃チ義務條約
 本ノ仕才ノ良否ニアル
 一ナレハ其約束ノ仕才
 政府ノ監治上ニ差支ヘ
 ナク様ニ取組ミ相談ス

第九十三條

問 工役ノ為メ瘵疾若シクハ死ニ至ル
 者ニハ當人若クハ其遺族ニ政府ヨ
 リ特別ニ救助ヲ給與スルノ制アル
 答 若シ囚徒工役上ニ瘵疾若シクハ
 死ニ至ル者アレハ先リ官ヨリ其事
 由ヲ探鑿ス若シ其事由全ク工役受

賈人ノ不注意ヨリ起リ其ノ責ヲ脱
 スルト能ハサルハ當人若シクハ
 其遺族ヨリ受賈人ニ對シ内濟或ハ
 公裁ヲ以テ至當ノ償金ヲ要求スル
 ヲ得ヘシ若シ又々其瘵疾及ヒ死ニ
 至ル事由全ク當人ノ不注意ニ起ル
 事ハ一切償金ヲ要スルノ義ナシ石
 等ノ時若シ工役ノ制官司工役ナレ
 ハ與フヘキ償金ハ官ヨリ給與ス其
 他ハ一切官ヨリ救恤ノ義ナシ

ルハ受真ニ役ノ例次
ニテ其旨ヲ示ス

第九十四條

問 獨居工役及ヒ雜居工役ノ兩制中ニ
何製造物品ノ精麁巧拙多クヲ比較
スレハ實際上何レヲ善シトスルカ

答 獨居工役ハ製造物ノ精巧多増ノ點
ヨリミレハ其成果雜居工役ニ優レ
リ獨居シテ工役スルハ他人ノ為
メニ其精神ヲ動搖セラル、ノ憂ナ
ク一心不乱ニ製作シ殊ニ其製造物
モ精巧美潔ナリ右ハ全ク分房因平

素清潔ヲ主トシ物ヲ配置スルニ整
齊アリ且ツ其製造定則時間外ニ勉
強スルヲ得ルヲ以テナリ

第九十五條

問 獄舎ノ工業ハ良民ノ工藝ト競争ヲ
起サ、ルカ實際經濟學ノ結果如何

答 前年種々ノ時節就中政治動擾ノ比
ニハ屢々論者アリテ全國獄舎ノ工
藝ハ良民ノ工藝ト競争ヲ起シ大ニ
國人ニ害アルヲ立論シ國內ノ職

人ヲ煽動セシカ近年ニ至リ右ノ議
論殆ント消滅ノ姿ニ成リ一般ノ輿
論モ政府真正ノ書類ニ據リ且ツ實
際ノ丁ヲ熟考シ始メテ前年ノ議論
ノ誤錯ヲ覺トリ政府ハ尚ホ常人ノ
如ク其囚徒ノ手ヲ假リ他ノ工藝ト
競争スルノ權アルトテ領知シタリ
右競争ニ付テハ政府ヨリ新ニ實地
競争ノ有無ヲ取調ハシニ其ノ競争
タル者ハ區域甚タ狭小ナルノミナ

ラス其ノ實甚タ公平ノ競争ナルト
ヲ証シタリ
巴里府内獄ノ工藝ノミヲ論スルニ
其工藝ヨリ生スル物品ト巴里府良
民工藝ヨリ生スル物品トヲ比較ス
レハ實ニ九牛ノ一毛ニモ當ラズ列
底競争ヲ起ス等ノ議論ハ萬々其憂ナ
カルヘシ殊ニ府内ノ製造人ハ好テ
獄内ノ工役ヲ受負フトテ欲セス其
譯ハ手業賃ハ屢々減スルトアレヒ

其製造物品ノ粗略ヨリシテ生スル
捜失多キ故ナリ因テ官ヨリ受負世
話人ニ寄托シ製造人ニテ獄内ノ工
藝ヲ引受ケ度キ者ヲ求メシムルモ
容易ニ探リ得ヌモノナリ

第九款 恩典

第九十六條

問 囚徒行状正シク改心ノ徴アル者ニ
與フル恩典ノ種類如何

答 巴里獄内ノ恩典赦免ヲ願フテ獄署

内ノ使丁ニ撰ムト役助、丁、病室、小使、工
人、寺、獄、則上ニ寛典ヲ與ルト定例外
得ト面會ナスルヲ

第九十七條

問 赦免、刑期減縮、及ヒ減等ヲ與フルニ
如何ナル箇條ヲ要スルカ

答 司法官ノ特命ヲ以テ處置スル者ヲ
除ク外一切ノ囚徒ハ其行状正シキ
者ニ非レハ赦免若クハ刑期減縮減
等ヲ許スヲ得ス

第九十八條

問

石ノ恩典ハ刑期ノ後分ヲ經過スルニ非レハ與ヘサルカ將タ經過スル

年月ヲ問ハサルカ

赦免、刑期減縮、減等、ヲ請求スル手續

如何

答

石恩典ヲ受クルニハ其囚徒ハ須ラク刑期ノ半ヲ經過シタルヲ要ス

ヘシ

赦免恩典ヲ與フルノ權ハ獨リ國ノ

第九十九條

問

囚徒中人命ヲ救助シ或ハ非常ノ變ニ尽力シ或ハ同囚ノ逃亡及ヒ返獄

ヲ報知スル等ノ者ニハ特別ノ賞典

マルカ

答

該質問ノ場合ニテハ監獄事務自ラ囚徒ノ為メニ赦免或ハ刑期減縮ヲ

上願ス

第百條

問 囚徒ノ中品行正シク衆囚ノ標準ト

ナルハキ者ハ獄署内ノ使丁等ニ撰

舉スルカ

答 第九十六條ノ答ニ詳ナリ

第百一條

問 囚徒ノ行状正シキモノニハ定食外

ニ菜肉ヲ加給シ或ハ賞錢ヲ給與ス

ルナラカ

答 食物ノ分量ヲ増加シテ給與スルナ

往々獄医ノ申立ル所ナレハ其給與

スルハ囚徒健康ノ為メニテ敢テ賞

典ノ訣ニ非ス

第十款 罰則

第百二條

問 獄則ヲ犯ス囚徒ニハ如何ナル罰ヲ

行フカ罰則ノ種類概畧如何

答 獄則ヲ犯ス囚徒ヲ罰スル刑ハ散步

面會ヲ禁スルヲ食物ノ買喰ヒヲ禁

スルヲ又タ格段ノ各房室ニ入ル、
暗室ニ入ル素麥餅ノミヲ與フル
トナリ縛袖衣ヲ服セシムル粗暴ニ
シテ制壓シ難キ犯人ニ限ル殊ニ其
犯人從順スレハ直ニ其服ヲ脱セシム

第百三條

問 罰則ヲ宣告スルハ誰ニシテ其手續
如何獄長ハ特別ノ權力ヲ有スルカ
其權力ノ制限如何制限外ノ罰ハ何
官ノ命ヲ待ツカ

答 罰則ハ獄長番人長ノ報告ニ據リ自ラ犯
人ヲ糾向シテ宣告ス

獄長ハ四日ノ罰ニ非レハ自ラ宣告スルノ
権ナシ四日已上ノ罰ハ大警視ノ宣告ヲ要ス

第百四條

問 刑限内輕重罪ヲ犯スヲアレハ其手續
如何犯人ハ初審中本獄ニ置ケカ將
タ未決監ニ送付スルカ

答 該條質向ノ場合ニテハ獄長直ニ事由ヲ大警
視ニ報告シ警察官即時ニ來リ時日ヲ移サ

不直ニ犯罪ノ模様ヲ取調ヘ司法検事ニ送
レハ検事即チ求刑ノ手續ヲナス
若シ犯人已決獄ニ在ルハ未決監
ニ送リ裁判ヲ待タシム

第百九条

問 若シ殖民地等ノ如キ裁判所ノ設ケ
ナキ地ノ獄内ニテ輕重罪犯アルハ
ハ如何ナル手續ヲ要スルカ

答 該条質問ノケ条ハ全ク海軍省事務
ナレハ茲ニ答弁セズ

第十一款 逃亡

第百六條

問 獄舎ノ内外共ニ逃亡預備ノ方畧如
何

答 獄舎第一ノ安全ハ建築ノ仕方ト内
部配置ノ仕方ニ在リ
逃亡及ビ外人ノ侵入ヲ防ク為メニ
獄舎ヲ繞テスニ二ノ外壁ヲ築キ高
サ殆トクトモ五メートルニテ壁
ノ内四隅ハ又ニ長メニ築クヲ要シ

兩壁間ニ巡邏道ヲ設ク
内部ニテハ嚴密ニ囚徒ノ動作ヲ監
察シ外部ニテハ巡邏道ノ邏兵ヲ以
テ不慮ノ拳ニ備フルヲ以テ容易ニ
逃亡ヲ謀ルノ術ナカラシム

第百七條

問 獄舎ノ外郭ヲ守衛スルハ鎮臺兵十
ルカ守衛ノ人負如何指揮スル者ハ
誰レナルカ衛兵ノ本務如何巡邏交
代ノ時間如何夜中ノ守衛ハ晝間ト

同ニキカ人民騷擾ノ際如何ナル方
法アルカ

答 監獄守衛兵ハ鎮臺兵ヲ以テ之レニ
先ツ其為メニ獄舎外門ノ側ヲ一
ノ宮也所ヲ置キ衛兵ノ數ハ每獄守
衛ノ繁閑難易ニ依リ差等アリ
監獄守衛ハ士官或ハ下士官之レヲ
指揮ス
巡邏交代ノ時間ハ二時間トス邏兵
ハ巡邏道ヲ守護シ其本務ハ許可十

クニテ巡邏道ヲ通行スル者ヲ禁シ
及ヒ疑ハレキ挙動アレハ直ニ番人
ニ報知ス

若シ獄ノ内部ニ騷擾起ルハ獄長
ハ鎮定ノ為メニ守衛兵ヲ使用スル
ノ權アリ

人民騷擾ノ際獄舎ノ守衛手薄キハ
ハ監獄事務ヨリ陸軍官ニ掛合ヒ一
層ノ守衛ヲ嚴ニス

第百八條

問 逃囚ノ探偵ハ行政權ナルカ將夕司

法ニ委ヌルカ

答 逃囚ノ探偵ハ巴里府ニテハ府内探

査官^{ドボリス}金頭^{リヌ}防安ノ任ナリ若シ捕逮シタ

ルハ直ニ司法官ニ引渡シ裁判ス

司法官ハ假令ニ捕逮ナクトモ不在

ノ逃囚ヲ裁判スルナリ

第百九條

問 逃走未遂ノ者獄則ヲ以テ罰スルカ
其罰如何

答 暴威ヲ用ヒス隱密ニ逃亡ヲ謀リ未
遂ノ者ハ大警視罰則ヲ以テ嚴罰ス
其罰ノ輕重ハ其場合ニ因リ差等アリ

第百十條

問 逃亡未遂ノ者ハ如何ナル刑ニ処ス
ルカ其刑ハ未決已決囚或ハ有期無
期ノ囚若クハ黨ヲ結ビ暴威ヲ用ヒ
タルトニ依リ差等アルカ

答 該條ノ質問ハ刑法ヲ見ルヘシ
三二
十百

二九
百條
四二
十百
三四
條十
二條
百二
四百
四十五
條一
條

第百十一條

問 逃亡再犯者ノ刑如何

答 逃亡再犯ハ刑法第五十六 五十七

五十八 諸條ニ詳ナリ

第百十二條

問 逃走シテ其非ヲ悔ヒ身自ラ獄舎ニ
立度ル者ハ如何ナラ寛典アルカ

答 該條質問ノ件ハ刑法ノ揭示セナリ

所ナリ

第百十三條

問 總囚ノ内一年間逃亡ノ數幾許

答 二十年己未巴里獄内ニテ逃亡九〇

三度逃亡ヲ謀リ不遂者數度アリ

第百十四條

問 看守人ノ怠惰ヨリ失囚スル片ハ其

罰如何

答 該條質問ノ件ハ刑法第二百三十七

條ヨリ二百四十七條ヲ見ルヘシ

第百十五條

問 火災浩水流行病等非常天変ノ際一

時獄舎ヲ解散スヘキ片ハ如何ナル

方法アルカ

答 火災浩水流行病等非常天変ノ際ニ

ハ至急用ヲ以テ囚徒ヲ他ノ獄舎ニ

運送ス

第百十六條

問 出願懲治ノ女囚或ハ乞食囚逃走

スル片ハ如何ナル手續ナルカ

答 該條質問ノ二件ハ監獄事務ヨリ至
當ノ処置ヲ施ス

第十二款 囚負

第百十七條

問 全國獄舎中ノ囚負現今幾許未決幾
人已決幾人男及ヒ女幾人

答 セーハ郡獄囚徒平均數一年分凡ソ
六千人ニシテ内男囚未決凡ソ千人
已決凡ソ三千五百人女囚未決二百
五十人已決千二百五十人合セラ男

女囚六千人

第百十八條

問 已決囚ノ内無期幾人十年已上幾人
五ヶ年已上幾人五年已下幾人

答 該條ノ件ハ内務及ヒ司法省ノ政年
表ヲ見ルヘシ

巴里府獄ニテハ懲役及重罪禁獄ノ
者僅ニ百余人ヲ除ク外ハ皆五年已
下禁獄ノ囚徒ナリ

第百十九條

問 已決囚ノ數全國一般ノ人口ニ比較

スレハ幾分ノ割合ナルカ

答 該条ノ件ハ内務省政年長表ヲ見ルヘ

第百二十条

問 首府ノ獄ニ在ル已決囚ノ數首府ノ

人口ニ比較スレハ幾分ノ割合ナル

カ

答 巴里獄内ノ囚員ハ凡ソ四千七百五

十人ニシテ府内巴里府外ノ人口ハ

二百二十二万。六十八人ナルヲ以

テ囚員ヲ比較スレハ四百六十七人

ニ付キ一人割合ナリ

第百二十一条

問 再犯囚ト總囚トノ比例如何

答 司法省政年表ヲ見ルヘシ

第百二十二条

問 罪囚ノ内尤モ多キ罪科ハ如何ナル

種類ナルカ

答 巴里獄内ノ尤モ多キ罪科ハ人殺盜

賊不義ノ行状無宿乞食偽取人財看
守盜赦免微監視ノ規則ヲ破ルル居
住ヲ離ル、刑禁ヲ破ルル等ナリ

第十三款

獄舎健康景况

食量衣服病囚登柱
及之疎病死囚

第一百二十三条

問 獄舎一般健康ノ為メニ設ケタル定

規如何空氣ノ流通疏水法温暖点火
散步浴湯ノ制如何

答

獄舎衛生健康ノ法制ハ監獄事務ノ
平日尤モ注意スルモノニテ三十年

己未新築ノ巴里獄ハ實際衛生ノ法

大ニ進歩シタリ空氣流通法ハ不絶

清氣ヲ流通スルノ制ナリ温室ノ割

ハ時候ノ寒暖ニ依リ温氣ヲ増減

スルノ制ナリ点火ハ十分ナリ疏水

法ハ汗水ヲ直ニ地下ノ汗水道ニ導

キ汗物モ亦夕同シク舎外ニ流下ス

大小便所ノ制ハ器管アリテ臭氣ノ

騰上ヲ防キ舎内悪氣除去ノ法アリ

夏日ニハ香草水ヲ囚徒ニ配与スル

ノ制アリ毎日散歩ノ制アリ浴湯ノ
制モ亦々全シ右等ノ一ハ即チ衛生
法ノ肝要ナリ

第百二十四条

問 囚徒一日ノ食量幾許日曜日及ヒ祭

日ニハ食量ヲ増加スルカ

答 巴里獄内健康囚毎日ノ食料ハ半日

ノパンニ七百五十グラム但シ女囚

ニハ七百グラムトス朝飯ニ汁半

リトトルヲ夕飯ニ獸膏ヲ以テ

料理シタル于野菜リトトル三分一

ヲ与フ

日曜本曜日ニハ膏ヲ以テ制シタル

汁半リトトルト牛肉百二十五グラ

ムヲ与フ

食量特別ノ制度アリテ病囚老衰囚

乳児携帶囚懐妊囚ノ八ヶ月ニ到着

シタル者幼年囚及ヒ国事犯囚ヲ養

フ

第百二十五条

向

已決囚ハ一服ニ獄衣ヲ着スルヲ以テ制規トスルカ未決囚ハ勝手タル

答

獄衣トハ男囚ニハ股引一ツ袖十レ一ツ毛織ノ上衣一ツ脇畔一ツ木履一對ナリ女囚ニハ上衣一ツ袴二枚頸巻布一ツ頭飾布一ツ履一對履下一對前垂一ツ木履一對寢帽一ツ夜中下着一枚ナリ
已決囚ニハ獄衣ヲ着スルヲ以テ定

則トシ如何ナル囚徒ニテモ特別ス

ルナシ未決囚ニハ獄衣ヲ着セシ

メサキ長獄衣ヲ願フ者アルカ或ハ

当人ノ衣服破損シタルキハ獄衣ヲ

与フ

第百二十六条

向

人監ノ節衣服洗濯掃除ノ方法如何

答

巴里獄ニテハ囚徒入監ノ時湯浴ヲ与ヘ全身ヲ擦洗セシメ其着用ノ衣服ハ硫烟ヲ以テ薰シ其惡臭ヲ去リ

蟲類ノ為メニ破損セザラシム

第百二十七条

向 衣服寝具其他一切ノ布帛等脱換ノ

規則如何

答 囚徒入監ノ者ニハ臍脰一枚寝布ニ

枚ヲ与ヘ臍脰ハ一周ニ一度寝布ハ

一月ニ一度変換ス

上着ノ変換ハ毎日着用ノ精粗ト其

工役ノ模様ニ因リ変換ノ遅速アリ

テ一定セム

第百二十八条

向 病囚ヲ処置スルノ法如何一切ノ病

囚ハ獄舎ノ病室ニテ治療スルカ將

夕尋常ノ病院ニ送付スルカ

答 輕症ノ病囚ハ每獄内ノ病室ニテ療

養シ若シ其病症重危ナルカ或ハ其

病症ニ因リ病室ニテ十分ノ療治出

未難キ者ハ「¹」獄ノ中央病監

ニ送り療養ヲ与フ

右ノ誤故ニ病囚ヲ尋常病院ニ送ル

トナシ

第百二十九条

問 病囚ヲ獄内ノ病室ニテ治療スルキ

ハ其病室ノ制度^{治療}監察^{治療}法如何若シ又

タ尋常ノ病院ノ送付スルキハ逃方

ヲ防クノ法畧如何

答 毎獄病室ノ制度ハ殆ニト尋常病院

中ノ一室ヲ見ル如シ獄医アリテ病

囚ヲ^緊檢^緊治方ヲ与フレハ獄内配藥

人之レヲ受ケ配劑ス

中央病監ニハ医員及ヒ助員ノ數十

分シ病囚食料ノ制モ亦タ特別ニ設

ク格^監監ニ番人長一人ヲ置キ專ラ病

監ノ雜務ニ任ス

病囚看護ノ法ハ他ノ健康囚ト異ナ

ルトナシ

第百三十条

問 病囚ヲ其親戚ニ送付スルトアルカ

然ラハ保証金ヲ出ス力如何

答 病囚ヲ親戚ノ家ニ送ルニハ救免願

第百三十一條

問

發狂癡疾不治症或ハ老衰ノ囚徒取扱ノ法方如何右等ノ囚徒ノ為メニ一種特別ノ病院ヲ設クルノ制アルカ

答

囚徒狂癡ノ症アルハ檢察ノ上尋常ノ病院ニ送ル癡疾或ハ不治症ニ係ル者獄内ノ病室ニ置クカ或ハナシニドニールノ乞食監ニ送ル

第百三十二條

問

右等ノ囚徒刑期満テタルハ其処置如何

答

右等ノ囚徒刑期満テタルハ直ニ尋常ノ病院若クハ乞食監ニ送ル

第百三十三條

問

病囚獄舎ヲ離レ他ノ病院若クハ親戚ノ家ニ治療シタルキハ其治療中日數ハ刑期內ニ算入セサルカ

答

病囚ヲ他ノ病院若クハ他監ニ遷移スルトモ刑罰ヲ中絶スルヲナク其療治ノ日數ハ刑期內ニ算入ス逃亡囚ナレハ其離監ノ日數ハ刑期內ニ算入セス

第百三十四条

問

總囚ト病囚トノ比例如何

答

該条ノ件ハ内務省獄舎表ヲ見ルヘシ尤モ巴里府ニテハ其比例ハ殆ニトハ八ノ一ナリ

第百三十五条

問

獄舎ニテ尤モ多キ病症ハ如何其根元ハ何ヨリ生スルカ

答

セ「又」郡獄內ニテ尤モ多キ病質ハ肺病貧血病ナリ該症ニ係ル囚徒ノ大半ハ大概子其入監已前ヨリ貧乏生活ノ難義ナルニ依リ石ノ病痕ヲ

所持スルニ似タリ

第百三十六条

問 癡狂者ノ此例如何且ツ分房合房ノ
兩制ヲ較シ其此例如何

答 巴里府獄ニテ癡狂囚ノ此例數ハ

狂癡ノ起ハ大概入監ノ初日ニ癡ス

然ル詠ハ此レ迄漠然奔走ノ生活ヲ

レテ遽喪シテ自由褫奪ノ境界ニ閉

居レ獨坐シテ前途ノ如何ヲ想像ス

ル腦亂自然ノ理ヨリ起ル

分房制雜居制共ニ癡狂者比較數ハ

殆ント同一ニレテ多少ナレ

第百三十七条

問 未決囚癡狂スルヤハ其処如何

答 未決囚ニレテ狂癡ノ症アル者ハ尋

常狂病院ニ送り快復ノ上直ニ未決

監ニ獲歸ス

第百三十八条

問 獄内死囚ノ此例如何

答 巴里府獄ニテ一年間死囚平均數ハ

殆ニト五百人トス

全国死囚比例ハ内務省政年表ヲ見ルヘシ

第百三十九条

向 死囚アルキハ檢視ノ法如何先ツ医

算ノ検査アルカ出席スル者ハ誰ソ

其死亡証書ヲ記スル者ハ誰ナルカ

答 囚徒病死スレハ獄医若クハ検死医

官来リテ其死状ヲ調ヘ死亡証書ハ

獄内書記官証書ヲ出シ医官調印シ

テ地処ノ戸長所ニ送レハ戸長死亡

証書ヲ登録ス

囚徒変死頓死 備死ノキハ地所ノ警

察官一医算ヲ属シ来リテ死状ヲ調

ハ明細書ヲ認ム尋テ警察官ハ検事

ニ報告シ意見ヲ述レハ検事其見込

ニ依リ葬埋ヲ許ス死亡証書ハ葬埋

許可状ノ掲クル事由ニ拠リ地処ノ

戸長所ニテ登録ス

若シ其死亡ノ状殺害ニ係ルキハ死

亡証書ハ紀向判事ノ指令スル戸長
所ニテ登録ス

第十四款 赦免
假出獄ノ
旅費給与
監視

第百四十条

問 囚徒假出獄ノ制アルカ或ハ囚徒誘
導ノ為メ其他ニ類似シタル制アル

カ

第百四十一条

問 其存在スル法制如何假出獄ヲ許ス
ニハ如何ナルケ条ヲ要スルカ監察

法如何假出獄ノ恩典ヲ取戻スケ
条如何假出獄中ハ囚徒其財産及ヒ
権理施行ニ付其位置如何

第百四十一条
答

假出獄ノ制ハ佛国ニ存セス

第百四十二条

問 赦免ノ手續如何

答 獄長ハ時々次ノ十五日内ニ赦免ス

ハキ囚徒ノ姓名簿ヲ認メ其刑ヲ宣
告シタル裁判所ノ検閲兼諾ヲ經ヘ
畢テ入監簿帳ノ姓名ヲ消滅シ当日

ニ至リ囚徒入監ノ片携帶シタル物
品衣服金貨等ヲ渡シ又タ工役上ノ
貯錢ヲ与ヘ放免出監セシム

第百四十三條

問 刑期満ル片ハ獄長直ニ放免スルカ
或ハ上官ノ指令ヲ待ツカ

答 囚徒ハ刑期満ルニ非レハ放免セス
放免スルニハ預シメ前條ノ手續キ
ヲ經ルヘシ

第百四十四條

問 放免ノ当日休日當ル片ハ前日ニ放
免スルカ

答 放免ハ刑期ノ満日ニ在レハ其当日
ハ前後スルヲ得ス故ニ休日祭日ニ
関セス放免ス

第百四十五條

問 放免人ノ旅費ハ貯金ヲ以テ仕松セ
スルカ或ハ官ヨリ給与スルカ官ヨ
リ給与スル片ハ其方法如何

答 放免人ノ旅費ハ自費ヲ以テ仕松セ

スル規則ナレハ若シ仕払フベキ金
ヲ
我所持セサル者ニハ旅費救助ヲ与

第百四十六条

問 囚徒出監ノ節貯銭ノ金員一人ニ付
概子戒許ヲ携帶スルカ

答 在監中一囚ノ貯銭ハ一日ニ十五サ
ニ千一ハ宛力増加スル平均数ナレ
ハ其在監日数ノ長短ニ因リ其高ヲ
知ルベシ

第百四十七条

問 赦免後監視ノ法ハ如何ナル囚徒ニ
監視法ヲ施スカ監視ハ刑法ナルカ
將タ行政上ノ取締ナルカ監視ノ期
限如何監視ノ施行及ニ監視スル官
如何監視法ニ悖タル赦免人ヲ罰ス
ルノ刑如何

答 赦免後監視トハ赦免ノ後政府ヨリ
其赦免者ニ令シケ様ニノ地方ニ
来ルヲ禁スルノ権ヲ云フ

右ノ監視法ニ付キ監視ヲ受ケタル
放免者ノ義務ハ第一ニ放免前ニ其
居住シタキ地方ヲ上告スルヲ但シ
其地方ハ政府ヨリ禁シタル地方ニ
非ナルヲ要ス第二ニ出監ノ時キ渡
シタル旅行免状面ノ道路ニ遠ク離
レズレテ直ニ其上告シタル地方ニ
至ルヘキヲ第三ニ滿六ヶ月已内又
ハ内務卿ノ許可ナクシテ住所ヲ遷
移スルヲ得サルヲ

放免後ノ監視ハ刑法ノ掲クル場合
ニ非レハ監視セズ
放免後監視ハ刑ノ一部ナレド其施行ハ行
政権ノ任スル所ナレハ行政権ニテハ其監視
ヲ中絶シ或ハ其期ヲ減シ或ハ其頭領ニ上願シ
恩典ヲ以テ全ク監視ヲ免スルヲ得ベシ凡ソ
監視ノ期尤モ長キ者ヲ二十年限トス
監視ヲ司トル官ハ内務卿郡長戸長
及ニ放免者住地ノ警察官ナリ
凡ソ監視ヲ受ケタル放免者ニシテ

マノ内ノ救免者ヲ保護ス
ルニシテ諸縣ノ馬民ナレハ五
ニ其保護ヲ拒ムナリ然レ其保
護ヲ拒ミテモ救免者ハ他ノ才
儀ナク故ニ天啓リ巴里府内ニ
所在シ生計ヲ計ル然レ其計
策多クハ又タ不正ノ策ニ出ス
ルナリ故ニ救免者ヲレバ里
府ヲ去ラレハルノ第一策ハ諸
縣各地ニ保護會社ヲ設クルニ
在リナリ

諸縣ニ設クル會社ノ制度
ヲ論ス
全圖ノ縣數ヲ色カシテ四十
區トス一區ハ二縣或ハ三縣ヲ
合併セリ故ニ保護會社ヲ設ク
ルニハ一區ニ一會社ノ制ニ設
クハレ
九リ一区内在四ノ出立マシ
共數十六萬人ニシテ三分ノ二
ハ大抵其親族又ハ友人ノ助力
ヲ受ケ或ハ自己ノ働ニテ生活
セリ故ニ保護ヲ乞フ者ハ二分
ノ一ト見レハ大概五百人ナリ
即チ一縣ニ付千六百人ノ制ニ
テ一縣ヲ合併スル一區ニ付千
二百人ニ縣ヲ合併スル一區ニ
付千八百人ノ制ニ付レハ會社ノ
事業ニ充テ出立ルハレ

會社ノ救免ノ在道スル縣ノ首
府ニ設クハレ其數ハ右會社設
立ノ始ニハ實際不別ナレハ概
長ヲ以テ相談相手トシ概長ハ
諸縣ノ番人ノ長ナレハ其番人
ニ諸事要用ノ件ヲ質問スルニ
都合アリテテ事其處ヲ得ル
ハレ然レ上ハ右ノ會社ヲ以テ
救免内ノ本社トシ其他諸縣ノ
在野ニ支社ヲ設ケテ救免者處
置ノ一ツ司ラシメ總テ本社ノ
規則ニ從テ事同ナリトシ
當ノ事業アルハ本社ニ本社ヨ
リハ平生支社ヲ監察シ務メテ
導導ノ教育所ト目一ニテテカ
レ殊注意スハレ
保護會社制度中監察官ノ
務ヲ論ス
千八百四十二年二月二十八日
法ニテ監察官ヲ置クテ定
メテリレ今ニ至ルニ數十年
未タ一度モ此法令ノ施行レタ
ルヲ見ケルナリ今假ニ此ノ法
令ヲ施行シタルト見レニ若シ
監察官ニ社スルニ尋常ノ詔書
取ヨリ奉ケルハ法ノ右アリ
テ法ノ實ヲ行キテ尋常ノ詔
書家ノ智識ハ十分ナレハ實際
ノ一ハ得テ迅速ナリ殊ニ救免
者トシテ計ニ至テハ詔書取

ズラエイトト教徒隱遁社等ナリ幼
男四ニハセトス郡如囚保護會社ア
リ
右會社ノ大半ハ公立ノ姿アルモノ
多シ

第百五十條
保護會社ノ章程目的資本實際ノ施
行如何現今迄ノ成果如何

石會社ノ實ハ囚徒ヲ見舞ヒ其眞ニ
悔悟ノ念ヲ顯ハス者ニ接近シ救免

スレハ其工藝仕事ヲ世話シ必用ノ
器物ヲ与ヘ以テ已ニ監内ニテ萌生
シタル良心ヲ十分ニ擴張スルヲ
務ム
談會社ノ資本ハ他ノ救恤社ノ資本
同様ニ一切ノ惠與物ヲ以テ資本ト
ス即チ寄附金集メ金巡請金蘭引或
ハ惠恩祭ノ益金等ナリ
保護會社ハ壯年囚ニ對シテハ目的
ノ如クナラサルヲ多ク甚々難義ナ

知ラサレド多シ故ニ右ノ監
 察官ヲ任スルニハ須ク地方
 製造人商人工事受員人等ハ
 衆人ヨリ撰奉スヘシ右等ノ人
 ハ平正下等ノ職人ト相積スル
 故ニ善ク其事情ヲ解シテ事天
 通リ得ルヘシ殊ニ地方ノ富家
 又ニ地方ノ官吏等ハ一切撰奉
 スヘカラス右等ノ人ハ單ニ評
 議人ノ名ヲ与ヘ事業ノ可否ヲ
 評議セシムルノミニスヘシ

レ氏一切失望ノ姿ナク現ニ憤發シ
 テ保護ノ道ヲ務メリ
 女囚幼女囚幼男囚ニ對シテハ其事
 業ノ効驗殊ニ著ルシク大ニ勉強ノ
 甲斐アリ

第十五款 刑期計算

第百五十一條

問 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スル
 力將タ亂向中入監ノ日教ヲ加入ス
 ルカ

答 刑期ハ刑名宣告ノ日若シクハ控訴
 裁判或ハ控訴不受指令ノ日ヨリ算

記ス
 亂向中入監ノ日教ハ刑期ニ算入セ

ス

第百五十二條

問 使役ニ服スル囚徒病氣又ハ事故ア
 リ休役スル内ハ刑期畢リシ後子休
 役ノ日教ヲ賞^役セシムルカ

答 如何ナルニアリタリトモ囚徒ハ其

刑期ノ満日ニ至レハ直ニ赦免ス

第百五十三条

問

一日ト称スルモノハ二十四時ヲ以テスルカ一月ト称スルハ三十日ヲ以テスル^ル或ハ刑名宣告ノ日ニ相當スル日迄ヲ一月トスルカ^{彼令ハ二月}以テハ三月トスルカ^{十日ノ宣告}一年ト称スルハ三百六十五日ヲ以テスル^ル或ハ年刑名宣告ノ日ニ逢フ毎ニ一年トスルカ宣告ノ日ト赦免ノ日ハ刑期内ニ

算入スルカ

答

禁獄一日ト称スルモノハ二十四^時間ヲ以テレ一月ト称スルハ三十日ヲ以テレ^レ数月或ハ数年ノ刑ハ其刑名宣告ノ日ニ至ル毎ニ一月一年ヲ数フ刑名宣告ノ日ト赦免ノ日ハ刑期内ニ算入ス

第十六款

未決監

第百五十四条

問

未決監ハ一種特別ニ設クルカ將タ

已決監内ニ區別スルカ

答 談条ノ答并ハ已ニ第一条「マガス」獄
カニラザル獄幼年獄ノ余ニ詳ナ

第百五十五条

問 未決監ハ一般分房制ヲ行フカ

答 談条ノ答并ハ第三條ニ詳ナリ

第百五十六条

問 未決囚ト外人トノ通信ノ監察如何

答 未決囚ハ裁判官嚴格ノ禁制ナキナ

ハ書状ヲ以テ外間ト通信スルヲ得
然レ其書状ハ書記局ニテ検閲ス又
々獄舎内使用人ノ取次キヲ以テ番
人ノ監視ヲ經テ其親戚ヨリ送ル布
類衣服食物ヲ受クルヲ得ヘシ

第百五十七条

問 拾別ノ場合ニテ未決囚ニ一切ノ外

交ヲ絶ツ方略如何

答 禁密法トハ一切外人トノ通信ヲ
禁スルヲ云フ右ノ場合ニテハ囚徒

ノ書状及ニ囚徒ニ當テタル書状共
ニ糾向判事ニ送ル

第百五十八条

問 未決囚ヲ監ヨリケシ糾向判事ニ送
ル方法如何然ルヤハ其護衛ハ誰レ
ニ委ヌルカ

答 談糸運送ノ法ハ巴里ニテハ分房馬
車ヲ用ケ共和護衛兵其運車ヲ守衛
シ裁判所ニ至レハ囚徒ヲ車ヨリ卸
シ裁判所内ノ分房室ニ入レ番人及

ニ厄アリテ看守ヲ司トル糾向判事
糾向ノ為メ其局内ニ呼入ルモハ巴
里護衛兵及ニ使令人アリテ看守ス

第百五十九条

問 對次或ハ犯罪ノ場所出張等格別ノ
場合ニテハ囚人ノ護衛規則如何

答 談糸ノ場合ニテハ其運送ハ尋常ノ
馬車ヲ用ケ糾向判事或ハ差遣警察
官或ハ保安局長其府内探鑿官ヲ卒
ニ看守セシム

第百六十条

問 未決囚ヲ未決監ヨリ呼出スハ何官ノ権内ニアルカ

答 未決囚ヲ未決監ヨリ呼出ノ権ハ獨リ糾問判事ト檢事トニ属ス

第十七款

女監

第百六十一条

問 女監ハ一種特別ニ設置スルカ将ク

男監内ノ一郭ニ區別スルカ

第百六十二条

問 女囚ハ輕重罪ヲ區別シ監獄ヲ差等

シ特別ニ設クルカ或ハ一監内ニ區分スルカ

第百六十三条

問 行政上ニテ入監シタル娼妓囚ハ別

ニ一監ヲ設クルカ將タ他ノ女囚ト

月監ニ入レ殊ニ郭ヲ異ニスルカ

第百六十二 三合 答 談 三条ノ答并ハ第一条警察廳拘留

所カニラガール監ノ条ニ詳ナリ

第百六十四条

問 娼妓ニシテ常罪ヲ犯シタル者ハ他

ノ常罪囚ト監ヲ同フスルカ將タ郭

ヲ異ニスルカ

答 巴里ニテハ娼妓ノ常罪ヲ犯シタル

者ハ他ノ常罪囚ト混同シテ區別セ

ス

第百六十五条

問 女監ノ内則ハ男囚ト異ナルモノア

ルカ果シテ然ラハ其異ナルケ条如

何

答 食料ノ制女囚ニハ七百グラムノ

麥餅ヲ与フ右ハ男囚ト異ナルモノ

ニテ其他食料ノ制ハ男囚ト異ナル

トナシ

第百六十六条

問 懲役ノ刑ヲ受ケタル女囚ハ流刑ニ

処セス内地ノ獄舎ニテ相当ノ使役
ヲ与フルカ

答 法律ハ監獄事務ニ委ヌルニ女囚ノ

懲役ノ刑ヲ受ケタル者ヲ植民島ニ

遷移スルヲ得ルノ権ヲ以テセリ然

レ石等ノ処置ニ及ハサル懲役女囚

ハ国内ノ中央監ニ入レシム

第百六十七條

問 女囚ノ總數幾許五年以下ノモノ幾

許五年已上十年迄幾許十年以上幾

許

答 巴里「サニラガール」女監ニテ女囚ノ

平均數ハ千百人ナリ

「カントニ」ノ監ハ其平均數四百人

ナリ

第百六十八條

問 女囚男囚ノ比例如何

答 巴里ニテ女囚ハ男囚三ノ一ノ比例ナ

リ

第百六十九条

問 女囚ノ犯罪尤モ多キ罪科ハ如何

答 「サニラガール」監「カニドニ」監内ニ

テ尤モ多キ女囚ノ罪状ハ不愼怠惰

無宿ナリ

第百七十条

問 女監ノ監察ハ如何ナル人ヲ用ニ其

法如何

第百七十一条

問 看守女人ハ尋常ノ人カ將タ僧族カ

第百七十一條係答

答 初条ニ述タル如ク「カニラガール」女

監ノ看守ハ女尼ヲ以テ之ニ任シ其

本職本務ハ男囚ノ番人ト異ナルヲ

ナシ

右ノ女尼ハ皆ナ「マリ」ジョセ「フ」流

ニ属ス

第百七十二条

問 病室ノ制度如何

答 病室ノ制ハ尋常病院ノ一室ノ如シ

病囚ハ朝ニハ獄医検査シ夕ニハ助

官巡察ス医官ノ命シタル治療法ハ
女尼受取テ其配下ノ配薬女ニ指令
シテ配劑セシム

第百七十三条

問 女監ニテ罰則及ヒ監察上ニ付キ獄
長ノ権限如何

答 「ガニラガール」監「サニドニ」監共ニ獄
長獨リ監内安全ノ責任ニ獄則ノ
施行ヲ監察ス決シテ権限競争等ノ
ヲナシ

第百七十四条

問 妊娠婦囚ノ取扱如何
答 懐妊八ヶ月已上ノ女囚ハ病室ニ入

一年已上ノ刑ヲ受ケタル女囚ナレ
ハ懐妊ナレハ中央監ニ移サス「ガニ
ラガール」監ニ留ム

第百七十五条

問 出産及ヒ携帶シタル小兒取扱如何
答 小兒アル女囚ハ其小兒ノ鞆ニ三才

ニ来ル迄自ラ養育スルヲ得ヘシ然ル
キハ病室ニ入レ特別ニ乳児携帶ノ
刑ニ処ル一年已上ノ刑ヲ受ケシ女
囚ニテ小児ヲ携帶シ自ラ養育セシ
テラ願フ者ハ皆ナラザルニ監
ニ出ム若シ又々自ラ養育スルヲ
欲マザルキハ小児ハ尋常ノ養育所
ニ送り母囚ハ其受刑スベキ監地ニ
遷ス

第十八款 少年獄

第百七十六条

問 少年獄ハ一種特別ニ設クルカ将タ

丁杜囚監内ニ一郭ヲ區別スルカ

答 巴里府内ニテハ第一条ニ述ヘタル

如ク幼年監アリ即チ幼年懲治教育

監トナシラザルニ女監内ノ如ク女囚

区ナリ

第百七十七条

問 少年獄ノ規律監察時間ノ配分及ヒ

食量等一般ノ制度如何

答

幼囚懲治教育監ハ其制度全ク昼
 夜分房ノ制ニ属セリ朝起ハ夏日ニ
 ハ朝七時ニ起生シ冬日ニハ朝八時
 ニ起生ス食事ハ朝飯ハ朝八時夕飯
 ハ夕三時トシ毎食時ノ時間ヲ半時
 間トシ食後更ニ半時間ヲ午ヘ散歩
 運動ノ時間トス卧寝ハ夜八時ヲ以
 テ寝ニ就カシム幼年囚ノ食料ハ毎
 日半白ノ麥餅七百五十グラムト
 汁ノ為メニ全白ノ麥餅百グラムト

ヲ午ヘ一週間ニ三度朝肉汁半リ
 トルト夕ニ煮タル牛肉ノ百二十五
 グラムヲ午ヘ一週ニ四度朝汁半リ
 トルト夕ニ野菜米蕃薯ノリト
 ルニ三分一ヲ午フ
 獄内則及ニ看守ノ法ハ他ノ獄舎ト
 殆ト同一ノ制度ナリ

第百七十八条

問

幼囚ニハ如何ナル教育ヲ授クルカ
 其教育ハ小學普通ノ科ニ職業学ヲ

兼ヌルカ将タ単ニ職業学ノミヲ教
ユルカ

答 幼年囚ノ教育ハ小学不通ノ科ト職
業学科トナリ

第百七十九条

問 学校ノ科目ハ如何科目ヲ設クル者ハ
誰レソ

答 囚徒ハ毎日少クトモ二時間学校ニ
出席ス其科目ハ素讀習字文典畧説
地理初歩数学入門ナリ右ノ科目ハ

監獄事務上官ノ迄立スルモノナリ

第百八十条

問 師範スル者ハ誰ソ師範撰挙ノ法及
ヒ必要ノ才学如何

答 科目教授ハ大警視ノ命任シテ給料
ヲ与ヘタル僧官ト書記又ハ番人ノ
中ヨリ教授ス

第百八十一条

問 宗旨ノ教育ハ如何夫レヲ授クル者
ハ誰ナルカ

答 獄舎ニ説教師ヲ置キ学校教授僧官
二人ト共ニ宗旨ノ教育ヲ授ク

第百八十二条

問 幼囚工役ノ法如何幼囚ハ工役ヨリ
生スル工錢ヲ受ルカ工錢ノ割合如
何出監ノ前貯錢アレハ誰人ニ渡ス
カ

答 幼囚ハ各其分房室内ニテ工役ス
一工藝毎ニ良民ヨリ選抜シタル授
業師一人ヲ置キ職業学科ヲ教ヘシ

工役ニ付キ其製造細工ヲ杜シタル
者ヨリ抽ヒタル賃金十分ノ三ヲ以
テ幼囚ニ与ヘ其余ハ官ニ収ム

第百八十三条

問 裁判所ヨリ無罪ト見認メタレモ預
防ノ為ニ丁年迄入監シタル幼囚ハ
他ノ罪囚ト混同スルカ将タ一監或
ハ一郭ニ區分スルカ

答 幼囚ハ其種類ヲ向ハス總テ分房

室ニ分離セシム

第百八十四条

問 私立幼年監ノ制了ルカ然ラハ其制
度及ヒ政府ノ監察方法如何

第百八十五条

問 公立或ハ私立ノ幼年農業監有無如何若

レ存在スルハ其制度規則監察ノ法如何

第百八十五條

答 該條質問ノ件ハ全ク内務省ノ事務

ナレハ茲ニ贅セヌ

第百八十六条

問 出願ノ幼年囚ハ其制度規則如何

第百八十七条

問 出願入監ノ手續如何

第百八十八条

問 出願懲囚在監ノ期限如何幼年囚ノ父

母ハ期限ヲ自由ニ延縮スルヲ得ル

カ

第百八十九条

問 謾リニ入監スルノ弊ヲ防クノ法如何

答 談糸ノ件ハ民法第三百七十五條

糸ヨリ三百八十三條ヲ見ルベシ

第百九十條

問 出願入監ノ費用ハ其父母ヨリ償却

スルカ將タ父母貧困トレハ官ヨリ

支給スルカ父母ヨリ償却スルキハ

一日ノ費用凡幾許ナルカ

答 出願入監ノ費用ハ一日六十「サ」ニテ

「ム」ト定メ其出願ノ父母ヨリ償却

ス若シ其父母貧困ナレハ其費用ハ

官ヨリ支給ス

第百九十一條

問 幼年囚保護會社ノ設ケアルカ果シ

テ然ラハ公立ナルカ將タ私立ナル

カ

第百九十二條

問 保護會社ノ制度目的資本實地ノ施

行如何

第百九十三條

問 現今ニテ實際ノ成果如何

第百九十二三條
答

詠条ノ答并ハ第百四十九第百五十

ノ二条ノ答并ニ詳カナリ

第百九十四条

問 少年監ノ数及ヒ保護會社ノ数裁許

答 詠条ノ件ハ内務省改年表ヲ見ルハ

シ

第十九款 負債勾当

第百九十五条

問 負債ヲ返却セシムル為メニ負債人

ヲ勾当セシム刑アルカ

答 民事商事及ヒ外国人負債拘当ハ千

八百六十七年七月廿二日ノ法ヲ以

テ廢シタレハ輕重罪及ヒ違式ノ償

罰金負債拘当ハ尚ホ存在ス

第百九十六条

問 負債勾当人ハ通常ノ獄舎入監スルカ

將タ特別ノ監ニ置クカ

答 巴里ニテハ政府ニ對シタル負債囚

ハ「サニテ」監ノ別区ニ入レ平民ニ

對シ償金ノ負債囚ハ「サントベラ」

一監ノ別区ニ入ル

第百九十七条

問 勾留監内一般ノ規則如何

答 負債囚ハ獄衣着用セラル丁工役ハ

望ミニ因リ勝手タル丁内外通信ハ

面會十分ニ手易クスル丁右ノ三事

ヲ除ク外ハ一般ノ規則ハ他ノ囚徒

ト同シ

第百九十八条

問 債主ヨリ負債料ノ為メ出ス金額ハ

如何右ノ金額一切負債囚ノ要用ニ

供スルカ將タ其一部ハ官ニ収メ入

費ヲ助クルカ

第百九十九条

問 身代限リノ者ニテ其所業ノ不正ヲ

ルヲ以テ裁判所ヨリ勾留ヲ命スル

ヤハ通常ノ囚ト混同スルカ將タ負

債囚ト同様ニ取扱フカ

答 不正身代限リノ者ハバンクルトシ

テ偽ル取入ノ行跡ノ犯状アルヲ以テ

全ク刑事ナレハ常因同様ニ未決監
ニ置キ裁判ヲ待タレム

第二百条

向 罰金上納セサル者ハ勾留スルカ

然ルキハ其入監ノ月数ト罰金ノ高
ト其割合如何

答 刑事ノ負債勾留ハ罰金収受官ノ願

ニ因リ檢事求刑ノ条目ニ依リ勾留

ス
拘留期限ハ千八百六十七年七月二

十二日法ノ第九條ノ預定スル条目
ニ依リ裁判ヲ以テ其期限ヲ定ム

第二百一条

向 債金ヲ出サ、ルモ勾留スルカ

答 債金ノ負債人モ同シク勾留ス右ハ千

八百六十七年七月二十二日ノ法ヲ
見ルヘシ

第二百二条

向 一般貧困ニシテ訴訟費ヲ納ムルカ

能ハサル者ニモ拘留ヲ行フカ其内部ノ

規則如何工役ヨリ生ル益金ハ悉皆官ニ上
納スルカ將タ一部ヲ拘留者ニ給スルカ

答

負債拘留者ニシテ刑事訴訟法第四
百二十条ノ条目ニ基キ当人ノ貧困
上納スハキ財産ナキヲ証スル者
ハ其裁判ニ因リ定メタル拘留期ノ
半期ヲ経過スレハ放免ス
負債囚ハ尸役勝手ナリ然レ工役ヲ
望ムヤハ之レヲ与ヘ其益金ノ半ヲ
当人ニ給シ其半ハ官ニ収ム

第二百三条

問 負債囚及ヒ其他ノ要償囚ハ居室面
會通信食物等ニ付テ常囚ヨリモ特
別ノ刑規アルカ

答

第百九十七条ノ答ニ詳ナリ
第二十款 国事犯囚

第二百四条

問 国事犯刑名ノ種類如何其種類ハ禁
獄重禁獄流刑等ニ區別スルカ

答

国事犯ノ刑ハ罰金禁獄重罪禁獄流

刑十八

第二百五五条

問 国事犯囚ハ工役スルヲ定規トスル

カ将タ勝手タルカ其規則如何

○禁獄

答 国事犯囚ハ工役勝手ナリ若シ望シ

テ工役スルキハ其益金ハ全ク当人

ニ給レ官上収メス

第二百五六条

問 国事犯囚ノ禁獄ハ特別ニ設クルカ

将タ常囚ト同監ナルカ

答 巴里府獄ニテハ国吏犯囚ノ一年一

日已下ノ者ハガントペラジール監ニ

入ル

第二百五七条

問 常囚ト同監ナルキハ特別ノ規則ヲ

ルカ又タ特別ノ監アルキハ其制度

如何

第二百五八条

問 国事犯囚ハ居室面^會通信食物等ニ付

小野田

第二百七十八條
答

平常囚ヨリモ特別ノ規則アルカ

国事犯囚ニハ特別ノ食料ヲ設ケ毎

日白麥餅六百グラム蒲萄酒五テ

リトトル及ヒ一週ニ三度肉膳ヲ供

ス

国事犯囚ハ毎日一リトトルノ蒲萄

酒及ヒ食物ヲ外ヨリ取入ルヲ得

ヘレ然レ毎度獄長ノ監察ヲ受クヘ

シ殊ニ驕奢ノ食物ハ禁止ス

国事犯囚ハ毎日其面會シタキ人ヲ

呼寄ルヲ得ヘレ然レ右ノ人ハ面

會免状ヲ所持スルヲ要ス

第二百九條

問 新聞記者ノ新聞上ニテ常罪ヲ犯シ

タル者ハ常囚ノ取扱ヒナルカ將タ

国事犯囚ノ様ナルカ

○ 重禁獄

答 新聞紙上ニテ常罪ニ觸レタル者ハ

全ク国事犯囚居所規律ヲ同クス

○ 第二百十條ヨリ二百四十二條マ

テ

詰質問ノ条々ハ警察廳ノ権限内ニ
非ス海軍省ノ事務ナレハ宜ク同省
ニ就キ其悉曲ヲ質問スベシ

第二百十條

問 囚莫犯重禁獄ノ者ハ城塞中ニ禁錮
スルカ然ルハ内部ノ規則及ヒ居
室通信等特別ノ制規如何

第二百十一條

問 国事犯囚ヲ禁錮スル城塞ハ如何ナ

ルモノカ

第二百十二條

問 囚人ノ事務ハ内務省ニ属スルカ將
々陸軍省ナレカ

第二百十三條

問 城中囚人ノ監察守衛ハ何省ノ掌ト
ル所ナルカ

第二百十四條

問 囚人ト外人ト通信ノ嚴緩如何
○流刑及ヒ塞内流刑

○佛国海軍省答書

ヌーベルカレドニト島国事犯流刑
制度

單流刑及ヒ塞内流刑
單一流刑ノトハ尋
ルニ者テ塞内流人ハ島内多クノ自由ヲ得
サキ刑場者ノエ地ヲ限リ出境スルヲ許

第二百十五条

問 流人及ヒ塞内流人ハ如何ナル処ニ
流移セラル、カ

答 塞内流人ハ本島内ノコトニ半島ニ

置キ單流人ハハニ島ニ置ク

第二百十六条

問 流刑場ノ管理ハ内務省ニ属スルカ
海軍省ナルカ

答 本島ノ管轄ハ海軍省殖民地部ニ属

ス

第二百十七条

問 流人ハ其流所ニ移スマテ如何ナル
獄ニ置クカ其獄則如何

答 往時ハ流人遷島迄ハケレルヌ塞ハ

里

イヤルル塞ヲレロ三島等ニ流人消
所ヲ置キタレ氏現今流人遷島ノ者
ナキヲ以テ悉皆廢止ニタリ

第二百十八条

問 流人ヲ運送スル費用ハ官費ナルカ
將タ受負人ニ托スルカ

答 流人ノ運送ハ官費ヲ以テ運送艦
ハ官船ヲ用エ

第二百十九条

問 流人ニテ住所食料及ニ監督ノ制度

如何

答 住所流人ハ島内ノ監舎ニ置ク然レ
自費ヲ以テ監外ニ自宅ヲ營造スル
ヲ許ス

食料流人ニハ兵卒同様ノ食量ヲ与
然レ葡萄酒ハ官司ノ為メニ工役ス
ル者ニ非レハ与ヘス

監察流人ノ看守ハ兵人ヲ用ヒ過失
アル者ハ軍吏裁判ニ送付ス

第二百二十条

問 流人ニテハ如何ナル工役ヲ授クル

答 流人ニハ工役ヲ裸セス当人ノ勝手

トス然レ工役スル者アレハ賃戔ヲ
給与ス

第二百二十一条

問 流人ハ殖民地良民ニ傭ハレカ得ス

ルヲ得ルヤ 将々一切官ノ為メニカ役スル

答 流人ハ一般各人ノ随意ニ志シ工役

セシメ島知事ノ許シヲ以テ島内良
民ノ傭夫トナルヲ得ヘシ

第二百二十二条

問 力役ヨリ生シタル益金ハ悉皆流人

ニ給スルカ将々其一分ヲ官ニ收ム
ルカ

答 流人ノ工役ヨリ生スル益金ハ全ク

流人ニ給与ス

第二百二十三条

問 流人ニ田地ヲ讓与スルノ制アルカ

果シテ然ラハ譲与スルニハ先ツ假
ニ譲与シ年ヲ歴テ本譲与スルノ制
アルカ其年限ノ長短如何
答
流人ニテ田地開墾ヲ願フ者ニハ島
内ノ田地ヲ譲与ス現今流人中本島
殖民ノ名目ヲ以テ田地譲与ヲ得タ
ル者多シ
田地譲与ノ制度ハ最初假ニ譲与シ
五年ヲ経テ本譲与トシ地主証書ヲ
与ヘ田地全ク願人ノ所有ニ帰ス然

シ假譲与中ハ事故アレハ官ヨリ其
田地ヲ取上ルヲ得ヘシ
妻子同居ノ流人ニテ假譲与中ニ死
スルハ其妻子ヨリ引継キ開墾
スルヲ得譲与五年ノ後ハ定規ニ
准シ本譲与トス
妻子同居ノ流人過失ニ依リ官ヨリ
假譲与ノ田地ヲ取上ルキハ妻子ヨ
リ出願シ取上ケラレタル田地ノ譲
与ヲ乞フヲ得ヘシ若シ譲与ノ許

可アルハ定規ニ準シ譲与五年ノ後
ニ本譲与トス

流人死之スルハ其本譲与ノ田地

ハ民法ニ拠リ子孫相続人ニ属ス

第二百二十四条

問 如何ナル要件アルハ其譲与シタル

田地ヲ官ニテ取上ルカ

答 島知事ハ假譲与年間ニ左ノ事件アル

レハ田地取上ケル命スルヲ得ヘシ

一行状正シカラス流地ノ規則ヲ守

ラサル

二怠惰ニシテ耕作セス田地ヲ荒ハ

ル

三脱島ヲ企謀スル

四軽重ノ常罪ヲ犯ス

若シ流人脱島シタルハ本譲与ノ

田地ト虽モ地主ノ権ヲ失ヒ官ニ没

収ス然シ島内在留ノ妻子アルハ其

田地ノ耕作ヲ許シ島知事ノ決議ニ

因リテハ再ヒ本譲与トナスヲ得

第二百二十五条

問 流人ハ流処ニ其家内ヲ呼寄ルヲ

許スノ制アルカ果シテ然ラハ其家

内トハ何人ヲ云フカ家内運送ノ費

用ハ自費ナルカ官費ナルカ

答 流人ノ父母妻子ハ流処ニ趣キ流人

ト同居スルヲ許シ其運送費用ハ

官ヨリ支給ス殊ニ夏情ニ因リテハ

着島即下ノ衣食料モ官費ヲ以テ支

給スルヲアリ

第二百二十六条

問 流人ノ家内ヲ呼寄セタル者ニハ他

ノ流人ヨリモ一倍ノ田地ヲ讓与ス

ルカ

答 妻子同居ノ流人ニハ其家内人数ノ

多少ニヨリ田地ヲ讓与スル自ラ廣

狭差等アリ

第二百二十七条

問 流人ハ流処ニテ婚姻スルヲ得ル

小里日

カ

答 流人ハ流処ニテ婚姻スルヲ許ス

第二百二十八条

問 刑期満キタル後流人ノ帰国スル者

ハ其路費ハ官費ナルカ将タ自費ナ

ルカ

答 放免人ハ満期ノ流人ハ官費ヲ以テ

本国ニ帰入セシム

第二百二十九条

問 流処ニテ逃亡ヲ防クノ方略如何

答 島内ノ流処ニハ昼夜巡邏兵ヲ置キ

海岸ニハ巡邏艦ヲ備ヘ脱島ヲ預防

シ殊ニ島港ヨリ發出スル一切ノ船

艦ハ出帆前嚴密ニ檢察ス

第二百三十条

問 流所ノ規則、工役、監察、田地讓與、等ニ

付其制度ハ尋常ノ流人ト塞内流人

トニ依リテ異ナルカ

答 単流人ト塞内流人トノ取扱ヒ左ノ

如シ

一 單流人ハ流處ニテ民權ヲ有レ塞
内流人ハ民權ヲ有セス

二 單流人ハ着島即下ニテモ願ニ因

リ田地ヲ讓与シ當人望ミノ地所

ニ居住スルヲ許ス

塞内流人ハ五年間島内刑場在首

ノ後ニ非レハ田地讓与ヲ得當人

望ミノ地所ニ居住スルヲ許サス

其他ノ規則ハ兩種ノ流人共ニ區別
スルヲナシ

第二百三十一条

問 流刑ノ外国支犯ニ付キ礦山使役或

ハ僻地追放等ニ類似シタル刑アル

カ果シテ然ラハ其法制如何

答 法律ニテ流處ヲ定立セザル以前ハ

一切ノ国支犯囚流刑者ト雖モ国事

犯重罪並ニ禁錮セリ

第二十一款

後刑囚及ニ遷島
田懲治囚ヲ云フ

第二百三十二条

問 懲役ノ刑ニ処セラレタル者ハ徒刑

場ニテ使役スルカ将々遷島シテ島
内ニテ使役スルカニ刑兼行スルキハ
如何ナル罪科ノ者ラ使刑場ニ置キ
或ハ遷島スルカ

答 佛国内地ノ使刑場ヲ廢シ一切常罪

ノ懲役囚ハ遷島シ工役ニ就カシム
其規則ハ懲役囚白人種ナレハ「又」
ブルカレドニ「島」ニ遷シ懲役囚亞
細亞人種又ハ亞弗利加人種ナレハ
「ギ」ウキヤ「北」地墨利ニ遷ス遷島

囚ハ内地ノ海所ニ置キ官船ノ出帆
ヲ待テ刑地ニ護送ス

第二百三十三条

問 使刑場ハ如何ナル地ニ置クカ

答 「ス」ーベルカレドニ「島」ヤオ
東「オ」ハ「リ」島ト「ギ」ウキヤ「北」
地墨利ノ兩地トス

第二百三十四条

問 使刑場ノ管理ハ何者ニ属シ場内ノ
事務及ヒ監察ヲ掌トルハ何人ナル
カ

小里

答 懲役地ハ海軍省殖民地部ノ管理ニ
属シ刑場支務ノ支配ハ特設ノ文官
又ハ武官及ヒ海軍士官ニ任ス

第二百三十五条

問 徒刑人ニハ如何ナル使役ヲ授クル
カ其使役ハ自由ナルカ將タ鉄鎖ヲ
施スカ

答 遷島囚ハ造船道路建築等公用ノ工
事ニ使役シ刑罰隊ニ属スル囚人ニ
ハ一或ハ二ノ鉄鎖ヲ着ケシメ過失

了レハ護罰トシテ昼間二人ヲ連鎖
スルヲ得ル

第二百三十六条

問 徒刑人ノ居所食物使役ノ時間及ヒ
監察ノ方法如何

答 囚人ハ刑地ノ監舎ニ雜居セシム然
レ田地讓与ヲ得タル者ハ自宅ニ居
住スルヲ許ス
囚人ノ食物ハ鮮肉塩肉鮮菜干菜米
及ヒ鹽豕膏等ニシテ各日葡萄酒及

小里

糖茶^ニ与フ

囚人ノ看守特設ノ看守兵ニ任シ囚人ハ午時ノ休役ヲ除クノ外終日工役ニ就ク

囚人ハ田地ヲ讓受シテ開墾スルヲ得又ハ殖民ノ家ニ備役スルヲ許ス

第二百三十七条

問 徒刑人ノ衣服如何

答 冬月ノ衣服ハ毛織ノ外套一枚服引一枚夏月ノ衣服ハ布ノ外套服引各

一枚ヲ与フ其他豪帽一ツ軍履一ツ
襦袢一枚ヲ与フ

第二百三十八条

問 徒刑人ハ外人ト交接スルヲ得ルカ

其制如何

答 囚人ハ事務局ノ檢閲ヲ經テ外人ト通信スルヲ許ス殖民ノ家ニ備役スル者ノ外ハ外人ト交接スルヲ得ス右備役ヲ許スニハ官ヨリ善良ノ殖民ヲ候テ其家ニ備役セシム

第二百三十九条

問 徒刑場ノ一揆等ヲ防クノ方略如何

答 今日マテ未タ遷島囚ノ暴挙ヲ起シ

タル例ナシ然レ不一其挙アルハ

監舎ノ近傍常ニ兵營アルヲ以テ鎮

定スルニ十分トス

第二百四十条

問 遷島囚ヲ送ルハ如何ナル地ナルカ

答 ヌ^レイ^ルベルカレドニ^レ島トギ^ルギ^ルヤ^ル

エ^ルノ^レ兩地トス

第二百四十一条

問 国事犯ノ流人ト常罪ノ遷島囚トヲ

比較レ^ル一般ノ規則、使役、田地讓與、家

内呼寄マ^ル等ノ制度上ニ異ナルモノ

如何

答 流刑人ノ工役ハ当人ノ勝手ニ任セ

島内多クノ自由ヲ与フレ^ル懲役遷

島四ハ工役ニ強迫レ^ル一切ノ自由ヲ

剥奪ス然レ^ル行状正シキ者ハ流人

同様ニ田地ヲ讓受シ及ヒ妻子ヲ呼

寄スルヲ許ス

第二百四十二條

問 流刑人及ヒ邊島囚ヲ置ク地ニテ健

康預防ノ制及ヒ説教ノ制如何

答 刑地衛生健康ノ支務ハ海軍医ニ任

シ輕症ノ病囚ハ監内ノ病室ニ置キ

重症ノ囚ハ島内ノ病院ニ送ル

宗旨ノ事務ハ説教師ニ任セ事務局

ヨリ給俸ヲ与フ且ツ島内ノ監舎ニ

ハ必ス礼拝堂ヲ設ケルヲ以テ定規

トス

第二十二款 監獄費用

第二百四十三條

問 監獄物主ノ權ハ中央政府ニ屬スル

カ將タ地方ニ屬スルカ

答 第十三條ニ述ヘタル如クセリ又郡

ノ未決監待裁監懲治監ハ其實郡立

獄ナルヲ以テ監獄持主ノ權ハセリ

又郡ニ屬セリ

第二百四十四條

問

監獄ノ費用ハ如何ナル方法ニテ給
スルカ工役ノ益金ヲ以テ監舎ノ費
用ヲ償フニ足ラサルカ然ルキハ其
不足ノ分ハ官ヨリ償フカ將タ地方
ノ費用ナルカ若シ地方ノ費用ナル
キハ官ヨリ資助金ヲ附スルノ制ア
ルカ果シテ之レアラハ資助金ノ割
合如何

答

セシメ郡獄ノ費用ハ政府ヨリ支給
ス其為メニ毎年定額中ニ監獄費ノ

一部ヲ入レ議院ノ評議ヲ歴ルナリ

第二百四十五條

問

獄舎一歳ノ費用幾許獄吏ノ給俸獄
舎管繕囚徒費用幾許

答

訣条ノ費用ハセシメ郡民獄ノ分獄
吏ノ給俸管繕囚徒費用等ヲ合セ一
歳ノ再二百三十万七千六百仙ト
ス

第二百四十六條

問

囚徒一人ニ付キ一日ノ費用幾許

答 巴里一府ハ一日ノ費用ハ九リ

一仙五サニテ一ムレノ割合ナリ

第二百四十七条

問 工役ヨリ生スル一歳ノ益金幾許

答 巴里府総獄ヲ合セ工役ヨリ生スル

収納益金一歳ノ高ハ九五十九万六

千仙トス

第二百四十八条

問 囚徒一人ニ付一日ノ益金幾許

答 巴里ニテ一日ノ得ル益金ハ男

女共ニ五十五サニテ一ムレトス

第二百四十九条

問 囚人護送費一歳幾許

答 該条ノ件ハ内務省改年表ヲ見ルヘ

レ

第二百五十条

問 獄舎會計ノ監察法如何其監察ヲ司

トルハ何レ人ナルカ

答 獄舎會計ノ精算ハ監獄吏務上官ヨ

リ監督ス右ニ付テハ第十二条ノ答

ヲ見ルハ

第二百五十一条

問 官司ト受負トラ比較シ獄舎ノ費用

尤モ少キハ何レナルカ

答 ヤ^レト^レ郡獄ハ工役ヲ除ク外ハ万事

皆ナ官司ノ制ナレハ警察廳ニテハ

詠余ニ答フヘキ比較ヲ知ラス

第二十三條

死刑

第二百五十二条

問 死刑ハ尚ホ存スルカ其制如何

答 佛國ニハ死刑存在ス刑法條例ニ曰ク

凡ソ死刑ニ処スル者ハ其頭首ヲ切

断ス

第二百五十三條

問 死刑ヲ行フニハ何官ノ命ヲ要スル

カ

答 死刑ノ前日ニ大検事ヨリ已決囚

所ノ獄長ニ明日死刑囚ヲ行刑人ハ

引渡スベキ指令状ヲ授ク

大検事ハ同シク護衛兵ノ刑場出席

ヲ促ス

第二百五十四条

問 死刑ハ公場ニテ行フカ將々獄内ナルカ

答 死刑ハ公場ニテ行フ即チ已決囚溜所ノ監門前ニ於テス

近日新ニ議論アリテ死刑ハ公場ニ於テセズ獄舎内ニテ行フハキ法ノ草案ヲ起セリ

第二百五十五条

問 死刑ニ立會テ官吏ハ何人ナルカ

答 死刑ニ立會ハキ官吏ハ地所ノ警察官及ヒ上等裁判所ノ書記官トス

第二百五十六条

問 死刑見届書及ヒ罪人死亡証書ヲ認ムルハ何人ナルカ

答 立會タル警察官ハ即時ニ死刑ノ明細書ヲ認メ畢テ地所ノ戸長所ニ死亡ノ届ヲナス戸長ハ直ニ死亡証書ヲ登録ス右死亡証書ハ尋常ノ死亡

証書ト異ナラス殊ニ刑死ノ事由ヲ
記載ス

第二百五十七條

問 死刑ヲ行フ者ハ給俸受ケタル官吏
ナルカ且ツ何者ニ属スルカ

答 行刑人ハ政府ヨリ給俸ヲ与ヘ内務
卿ノ兼任スル所ナリ

第二百五十八條

問 若シ數罪人アリテ同時ニ処刑スル
ハ其次第順序ノ立方如何

答 若シニ因アリテ同時ニ死刑スルハ
ハ先ツ犯罪ノ尤モ重キ者ヲ他ノ一
囚ノ眼前ニテ死刑ス

第二百五十九條

問 罪囚臨終ノ服ハ如何

答 死刑臨終ノ身構ヘハ行刑人其助役
ト共ニ手傳シテ行ハシム其身構ヘ
トハ両手兩腕ヲ縛リ臍臍ノ襟ヲ切
リリ。去リ兩足ノ運動ヲ禁スルナリ

第二百六十條

向 臨終ニ宗旨ノ式ヲ与フルハ誰ナル

カ

答 臨終宗旨ノ儀式ハ獄舎ノ説教師之

シヲ司トル右ノ説教師ハ死囚ノ獄

舎ニアルキヨリ見舞ヒ死刑ノ当日

ニハ死罪囚ヲ行刑臺ノ下迄引導ス

第二百六十一条

問 刑場ノ静穏ヲ保全スルノ方略如何

答 行刑ノ暫時先ヨリ巡查及ヒ騎馬ノ

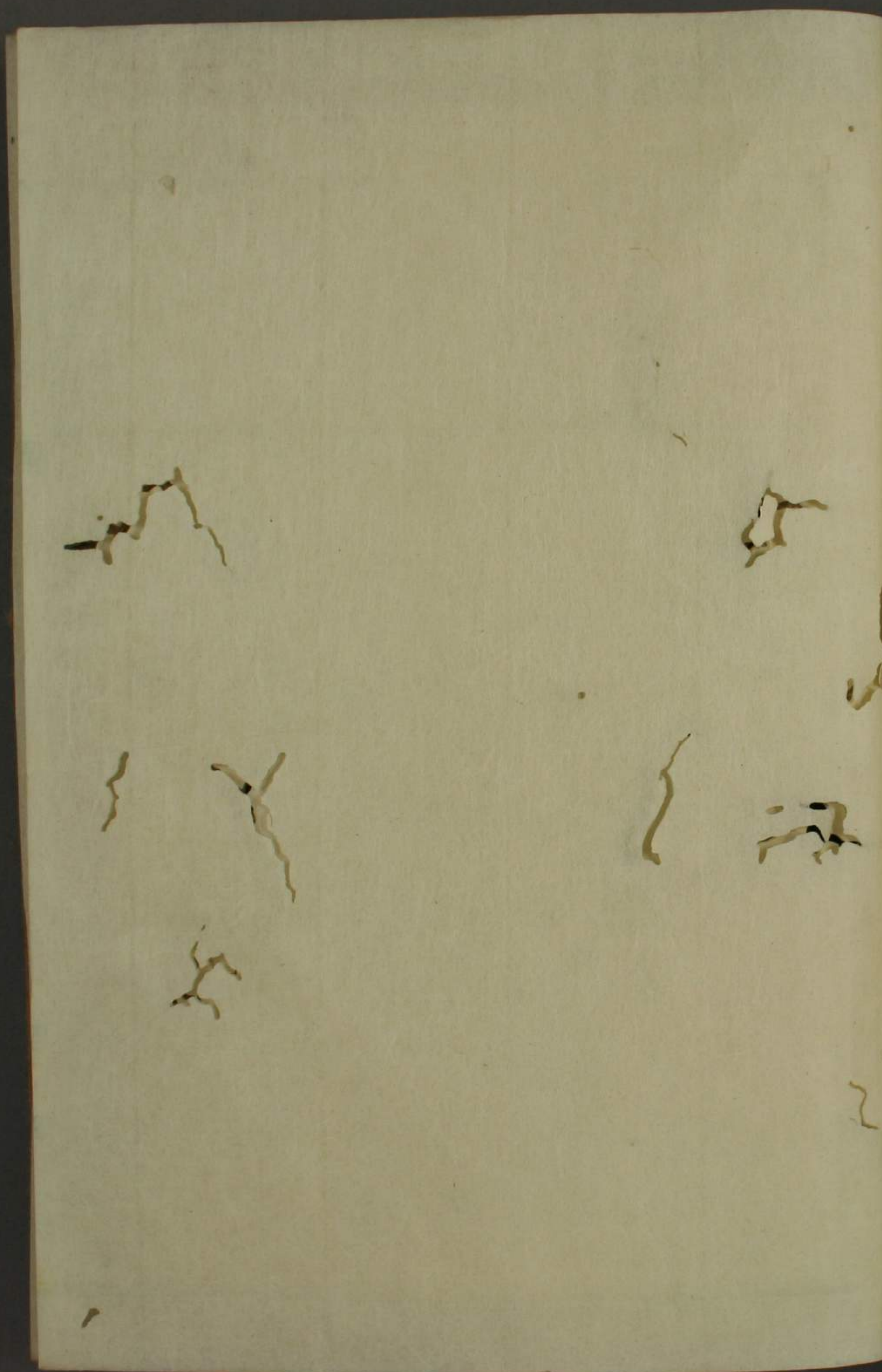
護衛兵ハ各其士官ノ指揮ニ依リ行

刑臺ノ周囲ヲ護衛シ見物人ヲシテ

行刑臺ニ接近セシメス行刑畢リ埋

葬人死囚ノ死體ヲ片付ケシ後ヲニ始

メテ退散帰營ス

The right page features a table with a blue border and vertical lines. The table is currently empty. There are some faint, illegible markings or stains on the page, particularly near the top and bottom edges of the table area. The paper is aged and yellowed.

里

